

フードバンク活動の実態把握と  
促進策の提案

Reality grasp of foodbank activity and suggestion of  
a promotion plan

堀 晃樹

HORI, Koki

環境政策・計画学科において学士（環境科学）の学位授与の資格の  
一部として滋賀県立大学環境科学部に提出した卒業研究論文

2017 年度

承認

---

指導教員

## 目 次

第一章	序論	1
1-1	研究の背景	1
1-2	本研究の目的	2
1-3	本研究の意義	2
1-4	研究方法	2
1-5	本研究の構成	3
1-6	本研究での用語の定義	3
	参考文献	3
第二章	FB 概要	5
2-1	はじめに	5
2-2	文献調査における考察	5
2-2-1	食品ロスとは	5
2-2-2	FB とは	5
2-2-3	FB に関する先行研究について	5
	参考文献	8
第三章	調査方法	9
3-1	はじめに	9
3-2	FB 活動団体への予備アンケート調査	9
3-2-1	調査目的	9
3-2-2	調査対象	9
3-2-3	調査時期	9
3-2-4	調査内容	9
3-2-5	返信状況	10
3-3	食品提供企業への予備アンケート調査	10
3-3-1	調査目的	10
3-3-2	調査対象	10
3-3-3	調査時期	11
3-3-4	調査内容	11
3-3-5	返信状況	11
3-4	社会福祉施設等への予備アンケート調査	11
3-4-1	調査目的	11
3-4-2	調査対象	11

3-4-3	調査時期	12
3-4-4	調査内容	12
3-4-5	返信状況	12
3-5	FB 活動団体への本アンケート調査	13
3-5-1	調査目的	13
3-5-2	調査対象	13
3-5-3	調査時期	13
3-5-4	調査内容	13
3-5-5	返信状況	14
3-6	食品提供企業への本アンケート調査	14
3-6-1	調査目的	14
3-6-2	調査対象	14
3-6-3	調査時期	14
3-6-4	調査内容	15
3-6-5	返信状況	15
3-7	社会福祉施設等への本アンケート調査	15
3-7-1	調査目的	15
3-7-2	調査対象	15
3-7-3	調査時期	16
3-7-4	調査内容	16
3-7-5	返信状況	16
3-8	FB 活動団体への追加アンケート調査	16
3-8-1	調査目的	16
3-8-2	調査対象	16
3-8-3	調査時期	17
3-8-4	調査内容	17
3-8-5	返信状況	17
3-9	アンケート回答 FB 活動団体・企業・施設のアルファベット表記について	17
	参考文献	18
第四章	FB 活動団体・食品提供企業・社会福祉施設等の実態把握	19
4-1	はじめに	19
4-2	本章の目的	19
4-3	調査方法	19
4-4	調査対象	19
4-5	調査結果	19

4-5-1	FB 活動団体から見た FB 活動の概要について	19
4-5-2	食品提供企業から見た FB 活動の概要について	25
4-5-3	各社会福祉施設等から見た FB 活動の概要について	27
4-6	まとめ	29
4-6-1	FB 活動団体の実態把握	29
4-6-2	食品提供企業の実態把握	30
4-6-3	社会福祉施設等の実態把握	30
4-6-4	FB 活動の課題の把握	31
	参考文献	31
第五章	FB 活動の課題と対策の要因把握	32
5-1	はじめに	32
5-2	本章の目的	32
5-3	調査方法	32
5-4	調査対象	32
5-5	調査結果	32
5-5-1	FB 活動団体における FB 活動での課題と対策について	32
5-5-2	食品提供企業における FB 活動団体との連携の内容について	39
5-5-3	社会福祉施設等における FB 活動団体との連携の内容について	46
5-6	まとめ	56
	参考文献	57
第六章	FB 活動の解決可能性・実施可能性に基づく促進策の提案案	58
6-1	はじめに	58
6-2	本章の目的	58
6-3	調査方法	58
6-4	調査対象	58
6-5	調査結果	58
6-5-1	FB 活動における促進策の解決可能性・実施可能性	58
6-5-2	FB 活動の促進策の解決可能性・実施可能性による有効性	67
6-6	まとめ	73
6-6-1	課題「提供される食品の質と量の両面での確保が困難」	73
6-6-2	課題「FB 活動の認知度が低い」	73
6-6-3	課題「FB 活動の運営資金が少ない」	74
6-6-4	課題「FB 活動における人員が少ない」	74

6-6-5	課題「食品をいただける食品提供先が少ない」	74
6-6-6	課題「他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」	75
6-6-7	課題「FB 活動の運営能力が乏しい」	75
6-6-8	課題「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図られていない」	75
第七章	結論	76
7-1	本研究の結論	76
7-1-1	目的 1 の結論	76
7-1-2	目的 2 の結論	78
7-1-3	目的 3 の結論	79
7-2	本研究全体を通しての考察	81
7-3	今後の課題	82
	謝辞	83
	付録	

## 図 表 目 次

図 1-1	FB 活動における食品の流れ	2
表 3-1	予備アンケート調査対象 (FB 活動団体)	9
表 3-2	FB 活動団体への予備アンケート調査項目	10
表 3-3	予備アンケート調査対象 (食品提供企業)	10
表 3-4	食品提供企業への予備アンケート調査項目	11
表 3-5	予備アンケート調査対象 (社会福祉施設等)	12
表 3-6	社会福祉施設等への予備アンケート調査項目	12
表 3-7	本アンケート調査対象 (FB 活動団体)	13
表 3-8	FB 活動団体への本アンケート調査項目	14
表 3-9	本アンケート調査対象 (食品提供企業)	14
表 3-10	食品提供企業への本アンケート調査項目	15
表 3-11	本アンケート調査対象 (社会福祉施設等)	15
表 3-12	社会福祉施設等への本アンケート調査項目	16
表 3-13	追加アンケート調査対象 (FB 活動団体)	17
表 3-14	FB 活動団体への追加アンケート調査項目	17
表 4-1	各 FB 活動団体の FB 活動の目的	20
表 4-2	各 FB 活動団体の FB 活動における経費負担	21
表 4-3	各 FB 活動団体の FB 活動における食品の収集方法	22
表 4-4	各 FB 活動団体の FB 活動における食品の保存方法	23
表 4-5	各 FB 活動団体の FB 活動における食品の配達方法	24
表 4-6	各 FB 活動団体の FB 活動における課題点	25
表 4-7	各食品提供企業が FB 活動団体 M と連携を結んだ経緯	25
表 4-8	各食品提供企業の FB 活動団体 M との連携での経費負担	26
表 4-9	各食品提供企業の FB 活動団体 M との連携での利益や効果	26
表 4-10	各食品提供企業の FB 活動団体 M との連携での課題点	27
表 4-11	各社会福祉施設等が FB 活動団体 M と連携を結んだ経緯	27
表 4-12	各社会福祉施設等の FB 活動団体 M との連携での経費負担	28
表 4-13	各社会福祉施設等の FB 活動団体 M との連携での利益や効果	28
表 4-14	各社会福祉施設等の FB 活動団体 M との連携での課題点	29
表 4-15	3 種の予備アンケート調査結果と FB 本調査報告書から把握した課題	31
表 5-1	FB 活動における課題の深刻度	32
表 5-2	「提供される食品の質と量の両面での確保が困難である」の対策	33
表 5-3	「FB 活動の認知度が低い」の対策	34

表 5-4	「FB 活動の運営資金が少ない」の対策	35
表 5-5	「FB 活動における人員が少ない」の対策	36
表 5-6	「食品をいただける食品提供先が少ない」の対策	37
表 5-7	「日本の他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」の対策	37
表 5-8	「FB 活動の運営能力が乏しい」の対策	38
表 5-9	「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図れていない」の対策	38
表 5-10	FB 活動を認知した方法	39
表 5-11	現在、連携している FB 活動団体を認知した方法	39
表 5-12	現在の FB 活動団体と連携に至った経緯における働きかけ	40
表 5-13	食品提供企業から FB 活動団体への働きかけの方法と働きかけの理由	40
表 5-14	FB 活動団体から食品提供企業への働きかけの方法と働きかけの内容	41
表 5-15	FB 活動団体と連携を図る決め手	41
表 5-16	FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素の有無	42
表 5-17	FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素	42
表 5-18	FB 活動団体との連携で不安な要素がありながらも連携を図った理由	42
表 5-19	FB 活動団体との連携の内容	43
表 5-20	FB 活動団体への寄付食品の中でより多くの寄付を行った食品	44
表 5-21	農林水産省に FB 活動における手引きが記載されていることの認知度	45
表 5-22	農林水産省に記載されている FB 活動における手引きの項目について実際の現場での実現可能性	45
表 5-23	FB 活動を認知した方法	46
表 5-24	現在、連携している FB 活動団体を認知した方法	47
表 5-25	現在の FB 活動団体と連携に至った経緯における働きかけ	47
表 5-26	社会福祉施設等から FB 活動団体への働きかけの方法と働きかけの理由	48
表 5-27	FB 活動団体から社会福祉施設等への働きかけの方法と働きかけの内容	48
表 5-28	FB 活動団体と連携を図る決め手	49
表 5-29	FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素の有無	50
表 5-30	FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素	50
表 5-31	FB 活動団体との連携で不安な要素がありながらも連携を図った理由	51
表 5-32	2016 年度、FB 活動団体からの食品の寄付の頻度	51
表 5-33	2016 年度の FB 活動団体からの食品の寄付の頻度における満足度	52
表 5-34	社会福祉施設等が希望する食品の寄付の適切な頻度	52
表 5-35	寄付品の中で、より多くの寄付をしていただいている寄付品	53
表 5-36	社会福祉施設等が希望する寄付品と FB 活動団体からの寄付品のマッチング	54
表 5-37	社会福祉施設等が実際、希望している寄付品	54
表 5-38	社会福祉施設等が FB 活動において、食品提供企業や FB 活動団体と関わりを	

	強化するための工夫点	55
表 6-1	「提供される食品の質と量の両面での確保が困難」の解決可能性	59
表 6-2	「提供される食品の質と量の両面での確保が困難」に対する促進策の実施可能性	60
表 6-3	「FB 活動の認知度が低い」の解決可能性	60
表 6-4	「FB 活動の認知度が低い」に対する促進策の実施可能性	61
表 6-5	「FB 活動の運営資金が少ない」の解決可能性	61
表 6-6	「FB 活動の運営資金が少ない」に対する促進策の実施可能性	62
表 6-7	「FB 活動における人員が少ない」の解決可能性	62
表 6-8	「FB 活動における人員が少ない」に対する促進策の実施可能性	63
表 6-9	「食品をいただける食品提供先が少ない」の解決可能性	64
表 6-10	「食品をいただける食品提供先が少ない」に対する促進策の実施可能性	64
表 6-11	「他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」の解決可能性	65
表 6-12	「他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」に対する促進策の実施可能性	65
表 6-13	「FB 活動の運営能力が乏しい」の解決可能性	66
表 6-14	「FB 活動の運営能力が乏しい」に対する促進策の実施可能性	66
表 6-15	「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図られていない」の解決可能性	67
表 6-16	「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図られていない」に対する促進策の実施可能性	67
表 6-17	「提供される食品の質と量の両面での確保が困難」の促進策の有効性	68
表 6-18	「FB 活動の認知度が低い」の促進策の有効性	68
表 6-19	「FB 活動の運営資金が少ない」の促進策の有効性	69
表 6-20	「FB 活動における人員が少ない」の促進策の有効性	69
表 6-21	「食品をいただける食品提供先が少ない」の促進策の有効性	70
表 6-22	「他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」の促進策の有効性	70
表 6-23	「FB 活動の運営能力が乏しい」の促進策の有効性	71
表 6-24	「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図られていない」の促進策の有効性	71
表 6-25	FB 活動における有効な促進策	72
表 6-26	FB 活動における比較的有効な促進策	72



## 付 録 目 次

付録 1	予備アンケート調査票 (FB 活動団体) . . . . .	2
付録 2	予備アンケート調査票 (食品提供企業) . . . . .	9
付録 3	予備アンケート調査票 (社会福祉施設等) . . . . .	13
付録 4	本アンケート調査票 (FB 活動団体) . . . . .	17
付録 5	本アンケート調査票 (食品提供企業) . . . . .	28
付録 6	本アンケート調査票 (社会福祉施設等) . . . . .	37
付録 7	追加アンケート調査票 (FB 活動団体) . . . . .	46
付録 8	本研究における FB 活動団体・食品提供企業・社会福祉施設等の アルファベットリスト表 . . . . .	51
付録 9	参考及び引用 URL . . . . .	53

# フードバンク活動の実態把握と促進策の提案

金谷研究室 1412031 堀晃樹

## 1. 背景・論点

我が国において、国内の年間食品廃棄量は約 1,700 万トンと言われている。このうち、本来まだ食べることが可能であるが捨てられている食品である食品ロスは、年間約 500 万~約 800 万トンと推計されている。これは、日本国内における米の年間収穫量に匹敵する数値であり、いかに食品ロスが多いかがうかがえる。<sup>1)</sup>

一方、厚生労働省の被保護者調査によると、高齢化や景気の後退の影響等を受け、平成 28 年 1 月現在、約 163 万世帯、約 216 万人が生活保護を受けている。また、生活保護の扶助として、特に扶助を受ける人が多いのは、食費など日常生活に必要な費用である生活扶助である。<sup>2)</sup>

まだ食べることが可能であるが捨てられる食品が多い中、明日、食べる食料の確保すら厳しい状況を強いられている人々が存在する現状である。

そこで、食品ロスと食を必要とする社会福祉施設等(社会福祉施設+生活困窮者へ食料を仲介し届ける団体)の仲介役として、フードバンク活動が挙げられる。以下フードバンクを FB と表記する。FB 活動は、過剰在庫により出荷可能期限を過ぎた食品や、輸送中の事故で箱が潰れ食品ロスとなったものを福祉施設や生活困窮者の自宅へ再配分する活動である<sup>3)</sup>。

廣田の先行研究<sup>4)</sup>では、FB 団体とその団体と関わりのある食品提供企業に対してヒアリング調査とアンケート調査を行ったが、対象が限定的な範囲であったため具体的な FB 活動の普及策には至らなかったとされている。

## 2. 研究の目的・意義

本研究では、FB 活動団体とその協力企業・社会福祉施設等の実態を食品ロスの収集・保存・配達などの面から把握することを目的 1、FB 活動の課題の対策を整理し、対策の要因を把握することを目的 2、FB 活動を進める立場から、FB 活動の促進策を提案することを目的 3 とする。

本研究の意義は現存する FB 活動団体や今後、FB 活動を開始する団体への参考資料となることである。

## 3. 研究方法

### (1)文献調査・予備アンケート調査

農林水産省の FB 活動本調査報告書<sup>5)</sup>、農林水産省 HP<sup>6)</sup>記載の FB 活動実施団体を対象に予備アンケート調査を実施し、FB 活動の現状を把握する。また、予備アンケート調査結果を基に、選定した FB 活動

表 1 本アンケート調査質問項目 (一部抜粋)

本アンケート調査対象	問	質問項目	回答方式
FB 活動団体	問1	FB活動における課題の有無と深刻度	選択式
	問2-1	課題の対策	記述式
	問2-2	対策の実施時期	選択式
	問2-5	対策の課題解決の程度	選択式
食品提供企業 社会福祉施設等	問1-1	FB活動を知ったきっかけ	選択式
	問1-6	FB活動団体と連携を図る決め手	記述式
	問1-8	連携での不安な要素の詳細	記述式
	問1-9	不安な要素がありながら連携を図った理由	記述式

表 2 追加アンケート調査質問項目 (一部抜粋)

問	項目 (FB活動促進策案)	回答方式
問1	提供される食品の質と量の両面での確保が困難に対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式
問2	FB活動の認知度が低いに対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式
問3	FB活動の運営資金が少ないに対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式
問4	FB活動における人員が少ないに対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式
問5	食品をいただける食品提供先が少ないに対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式
問6	他のFB活動団体と連携が密にとられていないに対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式
問7	FB活動の運営能力が乏しいに対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式
問8	食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図られていないに対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式

表 3 追加アンケート調査評価選択肢項目

選択番号	解決可能性の選択肢	実施可能性の選択肢	評価点
a	はい	実施することは難しい	1
b	いいえ	実施することはやや難しい	2
c	該当課題がない	どちらともいえない	3
		準備すれば実施することができる	4
		すぐに実施可能	5
		すでに実施している	6
		わからない	

団体と関わりのある食品提供企業、社会福祉施設等を対象とする予備アンケート調査を実施し、FB 活動と連携する企業や施設の現状を把握する。

### (2)本アンケート調査

農林水産省 HP 記載の FB 活動団体の FB 活動とその FB 団体と関わりのある食品提供企業、社会福祉施設等を対象に本アンケート調査を実施し、FB 活動の課題とその対策について整理する(表 1)。

### (3)追加アンケート調査

本アンケートの返送があった FB 活動団体を対象に(2)で整理された促進策について、促進策となるか、実施することが可能かを評価してもらい、その評価を基に促進策の提案を行う(表 2)(表 3)。

## 4. 結果及び考察

(1) FB 活動団体とその協力企業、社会福祉施設等の実態を食品ロスの収集、保存、配達等の面から把握 (目的 1)

表4 FB活動団体の食品の収集方法・保存方法・配達方法・課題点 (n=10)(一部抜粋)

分類	収集方法	団体名	
食品を譲り受ける企業から食品を車で送ってもらう	企業や団体からは食品を車または宅配便で送ってもらう	G	
	食品提供企業から倉庫まで宅配便やチャーター便にて届けていただく	H	
	市内と近郊の企業は当団体のスタッフがいたきき何う	A	
食品を譲り受ける企業まで食品を取りに行く	一定日にTELにて確認し車で取りに行く	C	
	分類	保存方法	団体名
	常温で保存のみを扱うので、当団体の倉庫に保管	賞味期限や常温保存できるものは倉庫で保存	A
基本的に常温保存できるもののみ扱っているため、当団体の倉庫で保存		G	
専用倉庫(冷凍と冷蔵)		H	
業務用冷凍庫、冷蔵庫で保存	冷凍・冷蔵も含め全ての食品を扱える体制としている	M	
	分類	配達方法	団体名
	施設・団体の車でFB活動団体に取りに来てもらう	地方の施設は拠点に取りに行く	A
福祉施設等に取りに来てもらう		G	
当団体の車両で配達		G	
施設・団体へは、FB活動団体の車両で配達	団体が所持している車で配達する	O	
	配達する施設はすべて当団体のスタッフの手で配達	A	
	都合のつく会員総出で仕分け、配達する日が週一	C	
分類	課題点	団体名	
運営資金の確保	事業からは収益を生まないという課題	G	
	運営するにあたって各メンバーの持ち寄りで活動を維持していること	Z	
食品を収集、配達する人員不足	食品を収集、配達する人が足りない	Z	
	利用世帯数が急激に増加する一方で、メンバーの数が緩やかにしか増えず、メンバーの負担が大きくなるものとなっている	O	
食品の収集量を増やす	食品提供企業として提供してくださる企業が少ない	H	
	食品の収集量も増やさなければならぬのが課題です	P	

表5 食品提供企業のFB活動団体Mとの連携での経費負担・利益や効果・課題点 (n=4)(一部抜粋)

分類	FB活動団体と連携での負担	食品提供企業名
FB活動団体と連携する物流企業への配達費の負担	配達費がかかる	B
	FB活動団体のマッチング手数料の支払い	C
	FB活動団体の物流協力企業への配達費を弊社で負担	D
負担はほぼない	負担はほぼありません	A
分類	FB活動団体と連携での利益や効果	食品提供企業名
食品処分コストの低減と社内の社会貢献及び環境意識の向上	食品を処分する際にかかるコストが削減された	A
	食品を処分する際にかかるコストが低減	C
	食品処分コストの低減と社内の社会貢献及び環境意識の向上	D
CSR投資	CSR投資と考えている	B
分類	FB活動団体と連携での課題点	食品提供企業名
賞味の短い商品は取扱できない	賞味の短い商品は取扱できないこと	A
本家は、食品ロスがない製販売を行うことが大切	本家は、食品ロスがない製販売を行うことが大切	B
施設が希望される商品と弊社が提供できる商品がマッチングしない	施設が希望される商品と弊社が提供できる商品がマッチングしない場合がある	C
特になし	特になし	D

1) FB活動団体から見たFB活動の概要

FB活動団体の食品の収集方法・保存方法・配達方法・課題点について表4に示す。食品の収集方法については、「食品を譲り受ける企業から食品を車で送ってもらう」、「食品を譲り受ける企業まで食品を取りに行く」が回答として多く挙げられた。保存方法については、「倉庫での常温保存」や「冷凍庫・冷蔵庫で保存」が回答として多く挙げられた。配達方法については、「施設・団体の車でFB活動団体に取りに来てもらう」、「施設・団体へは、FB活動団体の車両で配達する」、「車を所有するFB活動団体のメンバーが自家用車で配達」が回答として多く挙げられた。課題点については、「運営資金の確保」や「食品の収集、配達する人手不足」、「食品の収集量を増やす」が挙げられた。

2) 食品提供企業から見たFB活動の概要

表6 社会福祉施設等のFB活動団体Mとの連携での経費負担・利益や効果・課題点 (n=10)(一部抜粋)

分類	連携による負担	福祉施設名
物流企業に食品を輸送してもらい、送料を支払っている	FB活動団体へ輸送費を支払っている。	A
	食品を輸送してくれる物流企業に輸送費を支払っている。	B
分類	施設への利益や効果	福祉施設名
食品を購入するコストを削減することができる	食品を購入するコストを削減することができた	A
	経費削減	B
分類	連携での課題	福祉施設名
冷凍庫の容量の都合上、冷凍食品の受け入れに限りがあるため、常温保存可能な食品を増やしてもらいたい	冷凍食品が多く、現在の冷凍庫では容量が小さく受け入れることができる食品の量に限りがある	A
	欲しい食品があっても冷凍庫の容量の都合上、冷凍食品の受け入れに限りがある。出来れば常温保存の出来る食品を増やしてもらいたい。	C
	生鮮野菜等が増えることを期待している	B

表7 FB活動における課題の深刻度 (n=19)

選択肢	深刻度1位 (回答数*3)	深刻度2位 (回答数*2)	深刻度3位 (回答数*1)	評価点合計
FB活動の運営資金が少ない	7票*3点	3票*2点	2票*1点	29
食品をいただける食品提供先が少ない	6票*3点	2票*2点	6票*1点	25
FB活動の認知度が低い	3票*3点	4票*2点	3票*1点	20
FB活動における人員が少ない		4票*2点	2票*1点	10
提供される食品の質と量の両面での確保が困難である	1票*3点	2票*2点	1票*1点	8
食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図れていない	1票*3点	1票*2点	2票*1点	7
FB活動の運営能力が乏しい			1票*1点	1
日本の他のFB活動団体との連携が密にとられていない				0

食品提供企業のFB活動団体Mとの連携での経費負担・利益や効果・課題点について表5に示す。連携での経費負担については、配送を委託している物流企業へ配達費の負担が回答多く挙げられた。利益や効果については、「食品処分コストの低減と社内での社会貢献及び環境意識の向上」が回答として多く挙げられた。課題点については、「賞味の短い商品は取り扱えない」や「施設が希望する商品と提供できる商品がマッチングしない」が挙げられた。

3) 社会福祉施設等から見たFB活動の概要

社会福祉施設等のFB活動団体Mとの連携での経費負担・利益や効果・課題点について表6に示す。連携での経費負担については、食品の提供を受ける企業への配達費の負担が挙げられた。利益や効果については、「食品を購入するコストを削減することができる」が回答として多く挙げられた。課題点については、「保存できる容量に限りがあるため、常温保存可能な食品を増やしてもらいたい」や「生鮮野菜等を増やしてほしい」が挙げられた。

(2) FB活動における課題の対策を整理し、対策の要因を把握(目的2)

1) FB活動団体におけるFB活動での課題と対策について

FB活動における課題の深刻度について表7に示す。課題の深刻度については、「FB活動の運営資金が少ない」、「食品をいただける食品提供先が少ない」、「FB活動の認知度が低い」が深刻度の高い上位3つとして挙げられた。FB活動における課題の対策について表8に示す。各課題の対策については、「協

表 8 FB 活動における課題の対策 (一部抜粋)

分類	対策	対策実施時期	対策の評価	団体名
協力・連携	協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB 事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付	現在実施	かなり解決	v
広報	Facebook・ブログ・メディアへの情報提供・講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載	現在実施	少し解決	Z
意識	FBの食品は、注文も予約もできない不安定な食材である事を知ってもらうため、「ときどき来るサントクさん」と思ってください」と最初に配るフライヤーに記入	現在実施	かなり解決	C
助成金・寄付金	助成金の申請や賛助会員を募集している	現在実施	かなり解決	u
支援事業	FB事業を中心とする就労移行支援事業を進めている	現在実施	かなり解決	G
他	フードドライブの実施	現在実施	少し解決	0

表 9 食品提供企業が FB 活動を知ったきっかけ・連携を図る決め手・連携での不安な要素・不安がありながら連携を図った理由 (n=5) (一部抜粋)

	FB活動を知ったきっかけ		企業名
	新聞		D・G
	インターネット・SNS		D・H
分類	決め手		企業名
社会貢献	食料自給率が低い日本が食品廃棄物年間1900万トン、食品ロスが500~900万トン絶対におかしいと思ひ微力でも必要とする人に届けたい		E
経費削減	廃棄する食品の処分コストがかからないため		F
CSR	会社のCSRにもなるから		H
分類	不安な要素		企業名
転売	寄贈した商品が、絶対に横流しされないか不安であった		D
	食品の運搬方法や供給先について		G
分類	理由		企業名
現場での確認	寄贈活動を開始する前に、横流しがされないことを現地確認したから		D
	FB活動団体が真剣に活動されていたので		H

力・連携」、「広報」、「意識」、「助成金・寄付金」、「支援事業」、「その他」の6つに対策を分類した。

2) 食品提供企業における FB 活動団体との連携の内容について

食品提供企業が FB 活動を知ったきっかけ・連携を図る決め手・連携での不安な要素・不安がありながら連携を図った理由については表 9 に示す。FB 活動を知ったきっかけについては、新聞やインターネット・SNS が回答として多く挙げられた。連携を図る決め手については、「社会貢献」や「経費削減」、「CSR」が挙げられた。連携での不安な要素については、「転売」がすべての企業から挙げられた。不安がありながら連携を図った理由については、「現場での確認」がすべての企業から挙げられた。

3) 社会福祉施設等における FB 活動団体との連携の内容について

社会福祉施設等が FB 活動を知ったきっかけ・連携を図る決め手・連携での不安な要素・不安がありながら連携を図った理由については表 10 に示す。FB 活動を知ったきっかけについては、インターネット・SNS が回答として多く挙げられた。連携を図る決め手については、「経費削減」や「環境意識」、「社会貢献」が挙げられた。連携での不安な要素については、「食の安全性」が回答として多く挙げられた。不安がありながら連携を図った理由については、「食の安全性への理解」や「情報や責任の明確化」が挙げられた。

表 10 社会福祉施設等が FB 活動を知ったきっかけ・連携を図る決め手・連携での不安な要素・不安がありながら連携を図った理由 (n=17) (一部抜粋)

	FB活動を知ったきっかけ		企業名
	インターネット・SNS		K・B・S U・I・Y
分類	決め手		施設名
経費削減	無料で寄付していただけることで経済的に助かるため		K
	活動趣旨への賛同と無料で寄付であることから参加を決めた		N
環境意識	食べられる物を捨ててしまうよりは使ったほうが良い		M
	ゴミの削減に真摯に取り組んでいる団体に協力したいという思い		O
社会貢献	国単位で、この様な団体をもっと早く立ち上げるべきであると考えていた時期だったため		P
	ニュース等でのこのような団体の存在は知っていたため、法人として役に立てるのであればと思い連絡した		V
分類	不安な要素		施設名
食の安全性	傷がついていないか、賞味期限が短くないか、味はどうか		D
	食品の安全性や消費期限等の管理		L
分類	理由		施設名
食の安全性への理解	実際に寄付していただける食品を拝見させていただいて問題ないと感じたため		D
	冷凍食品と乾物・缶詰であれば可能なことから、そういう食品の受け入れをさせていただいている		U
情報や責任の明確化	しっかりと契約書を交わし、責任の所在を明確化することができたため		L
	事前に寄付物品についての情報提供があることと趣旨への賛同から参加を決めた		Y

表 11 FB 活動における有効な促進策

課題	項目 (FB活動促進策案)	解決可能性 (%)	実施可能性 (点)
提供される食品の質と量の両面での確保が困難	フードドライブの実施	100.0	5.2
FB活動の認知度が低い	市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行い情報を提供する機会を設ける	100.0	5.5
	HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布	100.0	5.3
食品をいただける食品提供先が少ない	フードドライブの実施	100.0	5.4

(3) FB 活動を進める立場から、FB 活動の促進策を提案 (目的 3)

1) FB 活動の促進策の解決可能性・実施可能性による有効性

はじめに、FB 活動の促進策の有効性の定義として、「有効な促進策」は、「解決可能性が高い」かつ「実施可能性が高い」とする。次に、FB 活動の促進策の解決可能性・実施可能性の定義として、「解決可能性」は最大値が 100%、「実施可能性」は最大値が 6 点とし、「解決可能性」は、(「はいの回答数」÷「全体回答数」) × 100%、「実施可能性」は、「選択肢 1~6 の合計」÷「全体回答数」とする。また、算出した「解決可能性」と「実施可能性」の評価の定義として、「解決可能性が高い」は、「解決可能との回答数が複数」かつ「解決可能性の割合が 90%以上」とし、「実施可能性が高い」は、「実施可能との回答数が複数」かつ「実施可能性の点数が 5 点以上」と定義した。

FB 活動における有効な促進策について表 11 に示す。解決可能性と実施可能性より行った促進策の有効性より、「フードドライブの実施」や「市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行い情報を提供する機会を設ける」、「HP・Facebook で広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」が挙げられた。

## 5. 結論

### (1) FB 活動団体とその協力企業、社会福祉施設等の実態を食品ロスの収集、保存、配達等の面から把握 (目的 1)

FB 活動団体の実態として、まず、収集方法と配達方法においては、「食品提供企業から食品を車で送ってもらう」、「食品提供企業まで食品を取りに行く」や「施設・団体の車で FB 活動団体に取りに来てもらう」、「施設・団体へは、FB 活動団体の車両で配達する」、「車を所有する FB 活動団体のメンバーが自家用車で配達」が主流とされている。しかし、FB 活動団体 M が「物流企業へ収集・配達を委託している」と挙げられた。物流企業へ委託することで、日常の業務で利用している配送網を使用し、より効率的に食品の配達を行うことができるのではないかと考える。次に、保存方法については、「倉庫での常温保存」が「冷凍庫・冷蔵庫で保存」より多い回答であった。このことから、生鮮食品や冷凍食品よりも缶詰やお米等、常温の食品が FB 活動で多く扱われるのではないかと考える。

食品提供企業の実態として、FB 活動団体 M との連携での経費負担としては、配送を委託する物流企業へ配送費の負担が挙げられた。このことから、FB 活動団体 M という FB 活動団体が経費を負担することなく、配送が行われることが分かる。次に、FB 活動団体 M との連携での利益や効果について述べる。最も多い回答として、「食品処分コストの低減と社内での社会貢献及び環境意識の向上」が挙げられ、連携における企業側のメリットが見込めると考える。

社会福祉施設等の実態として、FB 活動団体 M との連携での経費負担としては、物流企業への配送費の負担が挙げられた。しかし、FB 活動団体 M との連携での効果において、最も多い回答として、「食品を購入するコストを削減することができる」が挙げられ、社会福祉施設等は配送費を払うことになっているが、一般的に食品を購入するに比べ、配送費の方が安価で食品を確保できるため、食品を購入するに比べ、配送費の負担の方が安価で食品の確保が可能というメリットが見込めると考える。

### (2) FB 活動における課題の対策を整理し、対策の要因を把握 (目的 2)

FB 活動における課題として、表 7 に示すように 8 つの課題が挙げられた。この 8 つの課題に対する対策について、FB 活動団体を対象とした本アンケート調査により、対策を「協力・連携」、「広報」、「意識」、「助成金・寄付金」、「支援事業」、「その他」の 6 つに分類した。「協力・連携」に分類した対策は、「協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB 事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」、「広報」に分類した対策は、「Facebook・ブログ・メ

ディアへの情報提供・講演会の開催・地元誌への掲載」、「意識」に分類した対策は、「FB の食品は、注文も予約もできない不安定な食材であるため、「ときどき来るサンタさんと思ってください」と最初に配るフライヤーに記入」、「助成金・寄付金」に分類した対策は、「助成金の申請や賛助会員を募集」、「支援事業」に分類した対策は、「FB 事業を中心とする就労移行支援事業」、「その他」に分類した対策は、「フードドライブの実施」が挙げられた。

### (3) FB 活動を進める立場から、FB 活動の促進策を提案 (目的 3)

有効な促進策は以下の 4 つである。

①「提供される食品の質と量の両面での確保が困難」に対する有効な促進策は、「フードドライブの実施」となった。

②「FB 活動の認知度が低い」に対する有効な促進策は、「市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行い情報を提供する機会を設ける」となった。

③「FB 活動の認知度が低い」に対する有効な促進策は、「HP・Facebook で広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」となった。

④「食品をいただける食品提供先が少ない」に対する促進策は、「フードドライブの実施」となった。

### (4) 今後の課題

本研究を取り組むにあたり、すべての課題に対する有効な促進策を提案すること及び FB 活動の促進策までには至らなかった。また、現在 FB 活動団体と連携を図っていない食品提供企業や社会福祉施設等への調査を実施することで、今後 FB 活動を連携する企業や施設等への具体的な方法及び FB 活動の促進策となるのではないかと考える。

## 6. 参考文献

- 1) 消費者庁：平成 26 年版消費者白書 <[http://www.caa.go.jp/information/hakusyo/2014/honbun\\_1\\_1\\_3\\_1.html](http://www.caa.go.jp/information/hakusyo/2014/honbun_1_1_3_1.html)>, 2017-4-20
- 2) 厚生労働省：被保護者調査(平成 28 年 1 月) <<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/hihogosya/m2016/01.html>>, 2017-4-20
- 3) 小林富雄：食品ロスの経済学, p198, 農林統計出版株式会社 (2015)
- 4) 廣田怜：フードバンクによる人道支援を兼ねた食品廃棄量抑制の可能性についての研究, 滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 2011 年度卒業論文 (2011)
- 5) 農林水産省：FB 本調査報告書 <[www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/161227\\_8.html#21foodbank](http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/161227_8.html#21foodbank)>, 2016-12-16
- 6) 農林水産省：フードバンク <[www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/foodbank.html](http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/foodbank.html)>, 2017-7-5

## 第一章 序論

### 1-1 研究の背景

我が国において、国内の年間食品廃棄量は約 1,700 万トンと言われている。このうち、本来まだ食べることが可能であるが捨てられている食品である食品ロスは、年間約 500 万~約 800 万トンと推計されている。これは、日本国内における米の年間収穫量に匹敵する数値であり、いかに食品ロスが多いかがうかがえる。また、食品ロスは食品メーカーや小売店、飲食店、家庭等の食に関わる様々な段階で発生している。家庭における食品ロスの発生要因としては、野菜や果物の皮を厚く剥き、食べられる部分まで廃棄することや、食べ残し、手付かずのまま捨てられる食品が挙げられ、家庭における手付かずのまま捨てられる食品は 2 割にも上るとされている。食品関連事業者においては、業界における商慣習等に起因して、流通、調理、販売の過程で発生する過剰在庫品や破損品、売れ残り等が食品ロスとして発生しているという現状である。<sup>1)</sup>

一方、厚生労働省の被保護者調査によると、高齢化や景気の後退の影響等を受け、平成 7 年以降から生活保護受給者数が年々増加の傾向であり、平成 28 年 1 月現在、約 163 万世帯、約 216 万人が生活保護を受けている。また、生活保護の扶助として、生活扶助・住宅扶助・教育扶助・介護扶助・医療扶助など 8 種類に分類され、特に扶助を受ける人が多いのは、食費など日常生活に必要な費用である生活扶助である。<sup>2)</sup>

まだ食べることが可能であるが捨てられる食品が多い中、明日、食べる食料の確保すら厳しい状況を強いられている人々が存在する現状である。

そこで、食品ロスと食を必要とする社会福祉施設等の仲介役として、フードバンク活動が挙げられる。以下フードバンクを FB と表記する。FB 活動は、過剰在庫により出荷可能期限を過ぎた食品や、輸送中の事故で箱が潰れ食品ロスとなっていたものを福祉施設や生活困窮者の自宅へ再配分する活動である<sup>3)</sup>。(図 1-1)

佐藤・中野の先行研究では、FB 活動の実態把握と食育の観点から FB 活動の課題を明らかにすることを目的とし、日本で活動している FB 活動団体 40 団体を理念、提供先についてまとめ類型化を行った。類型化を行った上での結論としては、現状の FB 活動に食育の観点を加えることにより、食育基本法の理念の実態化や食品リサイクル法の具体化を図ることが可能となり、補助金制度の導入も有効となり FB 活動の活性化に繋がるとされた。<sup>4)</sup>

石坂・田中・大畑・福池・三田の先行研究では、FB 活動において寄付される食品の内容やその利用先について定量的に解析し、対外的に発表した事例は少ないため、FB に寄付される食品について、どのようなものがどこから来てどこで活用されるかについて把握することで、FB 活動の効率化と食品ロスの削減に資することを目的としている。調査結果として、FB に寄付されている食品について五つの実態や課題を明らかにした。<sup>5)</sup>

廣田の先行研究では、日本において多量の食品ロスが発生しているという背景に着目し、FB 活動による人道支援も兼ねた食品廃棄量抑制の可能性について明らかにした。しかし、

FB 活動団体への参与観察とヒアリング調査，その協力企業へのアンケート調査とヒアリング調査を行ったが，対象とした FB 活動団体とその協力企業が限定的な範囲であったため，FB 活動の具体的な普及策には至らなかったとされている。<sup>6)</sup>



図 1-1 FB 活動における食品の流れ

## 1-2 本研究の目的

本研究の目的は，以下の 3 つである

目的 1：FB 活動団体とその協力企業，社会福祉施設等の実態を食品ロスの収集，保存，配達等の面から把握すること

目的 2：FB 活動における課題の対策を整理し，対策の要因を把握すること

目的 3：FB 活動を進める立場から，FB 活動の促進策を提案すること

## 1-3 本研究の意義

本研究の意義は，現存する FB 活動団体や今後 FB 活動を開始する団体への参考資料となることである。

## 1-4 研究方法

本研究の目的を，以下①～③の調査によって達成する。

### ①文献調査・予備アンケート調査

農林水産省の FB 活動本調査報告書<sup>7)</sup>，農林水産省 HP<sup>8)</sup>記載の FB 活動実施団体を対象に予備アンケート調査を実施し，FB 活動の現状を把握する。また，予備アンケート調査の結果を基に，選定した FB 活動団体と関わりのある食品提供企業，社会福祉施設等を対象とする予備アンケート調査を実施し，FB 活動と連携する企業や施設の現状を把握する。

### ②本アンケート調査

農林水産省 HP 記載の FB 活動団体の FB 活動とその FB 活動団体と関わりのある食品提供企業，社会福祉施設等を対象に本アンケート調査を実施し，FB 活動における課題とその対策について整理する。

### ③追加アンケート調査

本アンケート調査で返送のあった FB 活動団体を対象に本アンケート調査の結果で整理された促進策について，促進策となるか，実施することが可能かを評価してもらい，その

評価を基に促進策の提案を行う。

#### 1-5 本研究の構成

第一章 本研究の背景，目的，意義，方法，構成，用語について記述する。

第二章 食品ロスやFBの概要について記述する。

第三章 本研究の調査方法について記述する。

第四章 予備アンケート調査の結果を記述する。

FB活動団体と選定したFB活動団体と連携している協力企業や社会福祉施設等を対象にした予備アンケート調査より，目的1（FB活動団体とその協力企業，社会福祉施設等の実態を食品ロスの収集，保存，配達等の面から把握すること）に対する結論を記述する。

第五章 本アンケート調査の結果を記述する。

FB活動団体とその協力企業，社会福祉施設等を対象にした本アンケート調査より，目的2（FB活動における課題の対策を整理し，対策の要因を把握すること）に対する結論を記述する。

第六章 追加アンケート調査の結果を記述する。

本アンケート調査で返送のあったFB活動団体を対象にした追加アンケート調査より，提示したFB活動の促進策の課題の解決可能性や促進策の実現可能性について調査する。その後，第5章の結果も踏まえ，目的3（FB活動を進める立場から，FB活動の促進策を提案すること）に対する結論を記述する。

第七章 本研究の目的に対する結論と今後の課題について記述する。

#### 1-6 本研究での用語の定義

本研究における主な用語について説明する。

- \* FB活動：過剰在庫により出荷可能期限を過ぎる，輸送中の事故で箱が潰れる等で食品ロスとなっていたものを社会福祉施設等へ再配分する活動。<sup>1)</sup>
- \* 社会福祉施設等：FB活動において，食品を受け取る社会福祉施設と生活困窮者へ食品を仲介し届ける団体を含めたもの。

#### <参考文献>

- 1) 消費者庁：平成26年版消費者白書 <[http://www.caa.go.jp/information/hakusyo/2014/honbun\\_1\\_1\\_3\\_1.html](http://www.caa.go.jp/information/hakusyo/2014/honbun_1_1_3_1.html)>，2017-4-20
- 2) 厚生労働省：被保護者調査(平成28年1月) <<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/hihogosya/m2016/01.html>>，2017-4-20
- 3) 小林富雄：食品ロスの経済学，p198，農林統計出版株式会社（2015）
- 4) 佐藤みずほ，中野冠：わが国におけるフードバンク活動の実態と食育の観点から見た課



- 題，慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 (2016)
- 5) 石坂薫，田中勝，大畑ゆき，福池伊織，三田善雄：フードバンクに寄付される食品の解析~どこから来てどこで活用されるのか~，第 28 回廃棄物資源循環学会研究発表会 講演原稿 (2017)
  - 6) 廣田怜：フードバンクによる人道支援を兼ねた食品廃棄量抑制の可能性についての研究，滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 2011 年度卒業論文 (2011)
  - 7) 農林水産省：FB 本調査報告書 <[www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/161227\\_8.html#21foodbank](http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/161227_8.html#21foodbank)>，2016-12-16
  - 8) 農林水産省：フードバンク <[www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/foodbank.html](http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/foodbank.html)>，2017-7-5

## 第二章 FB 概要

### 2-1 はじめに

本章では、文献調査により、日本の食品ロスの概要、日本の FB の概要について述べる。

### 2-2 文献調査における概要

#### 2-2-1 食品ロスとは<sup>1)</sup>

食品ロスとは、食品の可食部を指すものであり、①流通段階での消耗や期限切れ、②食材や売れ残りの直接廃棄、③過剰オーダーによる食べ残し、④調理くずのうちの可食部である過剰除去が含まれる。

食品ロスのうち、①と②の直接廃棄される食材ロスと調理品ロスの一部は食品の保存期間と密接な関係がある。日本では、賞味期限切れ間近の商品は 3 分の 1 ルールといわれる商慣習によって、多くが出荷できずに廃棄されるか、小売店から卸売業者やメーカーに返品され廃棄される。また、①と②の中には、調理ミスやパッケージの印字ミス、供給者側の需要予測ミス、災害用備蓄食料の放出品などがあるが、これらはまだ食べられるにもかかわらず、流通ルートせず廃棄される。さらに、見栄えや選択肢が多いという品揃えに顧客の消費行動が左右される場合は、過剰な陳列による食品ロスが発生することもある。

外食等で発生する③の食べ残しは、消費者の過剰オーダーが原因として多い中、盛り付け量を調整できないメニュー設定が問題となることもある。

④については、外食産業の店舗や、食品製造業では発生抑制が進んでいるが、家庭系での過剰除去を減らす調理法の啓蒙が進められている程度であり、課題が多いとされている。

これらの状況により発生する日本の食品ロスは、年間約 500 万～800 万トンという現状である。

#### 2-2-2 FB とは<sup>1)</sup>

FB とは、過剰在庫により出荷可能期限を過ぎた食品や、輸送中の事故で箱が潰れ食品ロスとなっていたものを福祉施設や生活困窮者の自宅へ再配分する活動であり、1967 年に米国で誕生し、現在でも欧米では認知度の高い活動として発展しており、日本でも 2007 年に報道番組のメディアに取り上げられ、FB の認知度は向上した。しかし、2012 年時点で、東京のセカンドハーベストジャパンが日本の FB の 8 割程度の取扱量のシェアを誇っており、地方では少しずつ事業拡大を図っている現状である。

FB の仕組みとして、FB 団体は品質保持や転売をしないことを条件に、メーカー等から過剰食品を提供してもらう。そして、FB 団体と提供元企業と転売禁止や、賞味期限が過ぎていたものは取り扱わないという規定を含んだ同意書を締結した上で、貧困層等へ再配分を行う。このように FB は過剰食品を再配分する一方、安全性を確保するために食中毒対策等を徹底し、既存の市場への負の影響を極力減らす非市場流通の仕組みを構築している。

## 2-2-3 FBに関する先行研究について

### (1) 佐藤・中野（2016）の先行研究<sup>2)</sup>について述べる.

佐藤・中野の先行研究は、FB活動の実態把握と食育の観点からFB活動の課題を明らかにすることを目的とし、日本で活動しているFB活動団体40団体を理念、提供先についてまとめ類型化を行った。類型化については、生活困窮者に食品を提供している「生活困窮者救済型」、食品ロスの削減を意図している「食品廃棄削減型」、地域の活性化を目指している「地域活性型」に分類し、FB活動団体を地域に偏りがないように、救済型4団体、削減型4団体、地域活性型1団体の合計9つの団体についてアンケート調査を実施した。

各類型化の調査結果として、「生活困窮者救済型」のFB活動は、生活困窮者の支援等を目的に食料の配布や路上生活者への炊き出しを行い、生活をサポートしている。また、使用する食品は期限内のものを使用し、食品を利用する人の健康管理に配慮を行っていると考えられた。「食品廃棄削減型」のFB活動は、賞味期限切れ間近な食品や農家の規格外野菜、流通上の規定によって発生する規格外食品等、廃棄するにはもったいないという食品廃棄量の低減化を目的としている。また、「生活困窮者救済型」と同様に、食品を利用する人への健康管理に配慮していると考えられた。「地域活性型」のFB活動は、例として地域活動の一つとしてレストランを運営し、その売り上げをFB活動資金としている団体があり、「生活困窮者救済型」や「食品廃棄削減型」と違い、地域の中で活動をしているため、地域の理解を得るのが容易で食品の調達も比較的容易と考えられた。「生活困窮者救済型」や「食品廃棄削減型」と同様に食品は期限内のものを使用しており、FBを利用する人への健康管理に配慮していると考えられた。

類型化を行った上での結論としては、日本におけるFB活動団体40団体を救済型23団体、削減型13団体、地域活性型3団体、その他1団体と類型化され、救済型と削減型を目的とするFB活動団体が多く食育の観点が希薄であった。現状のFB活動に食育の観点を加えることにより、食育基本法の理念の実態化や食品リサイクル法の具体化を図ることが可能となり、補助金制度の導入も有効となりFB活動の活性化に繋がると考えられた。

### (2) 石坂・田中・大畑・福池・三田（2017）の先行研究<sup>3)</sup>について

石坂・田中・大畑・福池・三田の先行研究は、FB活動において寄付される食品の内容やその利用先について定量的に解析し、対外的に発表した事例は少ないため、FBに寄付される食品について、どのようなものがどこから来てどこで活用されるかについて把握することで、FB活動の効率化と食品ロスの削減に資することを目的としている。研究の調査対象としては、NPO法人FB岡山とし、FB岡山の取り扱い食品データを基に解析を行った。

調査結果として、FB岡山に寄付されている食品について五つの実態や課題が明らかになった。一つ目は、寄付食品のうち調理の必要なものが80%占めている、一方、調理不要の食品が相対的に少ないことである。このことから、生活困窮者への緊急支援用の食品は十分な量が確保できていないことが分かる。二つ目は、食品の寄付元は小売店が67%を占め、sy食

品の構成は小売店の系列によって異なる。これは、賞味期限が1カ月以上残っている食品や各小売店の販売期限の内規の違い、回収のタイミングが寄付食品の構成に影響を与えていると考えられ、寄付食品の基準の緩和回収時期の見直しにより回収量の増加が見込まれると考えられる。三つ目は、フードドライブによる寄付食品はインスタント食品等の多様な食品で構成されており、生活困窮者への緊急支援用食品に活用しやすいため、フードドライブの参加団体増加が望まれている。四つ目は、一般企業からの防災備蓄品は東日本大震災に備蓄されたものの切り替え品とされ、緊急支援食品として有用な防災備蓄品の確保のため、以前より備蓄している自治体との連携が必要と考えられる。最後に五つ目は、食品製造事業者からの寄付は全体の6%と少ないことである。FB活動のPR不足や、食品製造事業者の辱品管理の厳しさ、常温管理・長期管理が可能なものという寄付条件が障壁となるが、今後、多くの地域の食品製造事業者との連携が望まれると考える。

以上の5点がFB活動の寄付食品における課題や明らかな点である。この研究は調査対象とするFB活動団体が1団体であり、データへの正当性を図るには日本の複数のFB活動団体の実態を調査すべきであると考えられる。

### (3) 廣田 (2011) の先行研究<sup>4)</sup>について述べる。

廣田の先行研究は、日本におけるFB活動の普及実態を把握し、FB活動団体やその協力企業の視点から現状の問題点や課題点を抽出した上で、FB活動の拡大に向けた普及策の提案を目的としている。また、意義は日本におけるFBの普及促進と今後FB活動を行う団体への参考資料となることとしている。

これらの目的を達成するために廣田は、文献調査やFB団体へのヒアリング調査、FB団体の協力企業へのヒアリング調査やアンケート調査を実施し、考察を行った。

先行研究から明らかになった課題と対策について述べる。課題として①認知度の低さ、②法的措置の欠如、挙げられた。①の対策としては、食品の寄付だけでなくボランティアとして時間の寄付を行うことが挙げられた。また、フォーラム等の勉強会が機能することも対策の一つとして挙げられた。②の対策としては、欧米など諸外国のような法的措置を行うことが挙げられた。具体的な措置としてFB事業が提案されており、廃掃業者への引き渡しとリサイクル事業者への荷下ろしの際に許可が必要なく、食品関連事業者、リサイクル業者、農林漁業者が申請を行うことで報告の義務を免除することができるという。これにより、FB団体にとって負担となっている食品の運搬のコストを食品リサイクル法によって食品関連事業者に義務付けることが可能となる。しかし、廣田は研究の今後の課題として、最終的な結論として、具体的な方法の提言には至らなかったとしている。その理由として、FB団体への参与観察とヒアリング調査、その協力企業へのヒアリング調査とアンケート調査を行ったが、いずれも限定的な範囲の調査となり、十分な回答数を得ることができなかったとしている。

<参考文献>

- 1) 小林富雄：食品ロスの経済学，p198，農林統計出版株式会社 (2015)
- 2) 佐藤みずほ，中野冠：わが国におけるフードバンク活動の実態と食育の観点から見た課題，慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 (2016)
- 3) 石坂薫，田中勝，大畑ゆき，福池伊織，三田善雄：フードバンクに寄付される食品の解析~どこから来てどこで活用されるのか~，第 28 回廃棄物資源循環学会研究発表会 講演原稿 (2017)
- 4) 廣田怜：フードバンクによる人道支援を兼ねた食品廃棄量抑制の可能性についての研究，滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 2011 年度卒業論文 (2011)

### 第三章 調査方法

#### 3-1 はじめに

本章では，本研究の目的を達成するための，調査方法及び調査対象等について述べる．

#### 3-2 FB 活動団体への予備アンケート調査

##### 3-2-1 調査目的

FB 活動団体からみた FB の現状把握を目的とする．

##### 3-2-2 調査対象

2016 年 10 月時点，農林水産省 HP<sup>1)</sup>に記載されている FB 活動団体 40 団体とする．以下の表 3-1 に詳細を示す．

表 3-1 予備アンケート調査対象 (FB 活動団体)

FB活動団体	FB活動団体	FB活動団体	FB活動団体
A	K	U	e
B	L	V	f
C	M	W	g
D	N	X	h
E	O	Y	i
F	P	Z	j
G	Q	a	k
H	R	b	l
I	S	c	m
J	T	d	n

##### 3-2-3 調査時期

2016 年 10 月 5 日から 10 月 24 日にかけて，メールと郵送により実施した．

##### 3-2-4 調査内容

FB 活動を開始した背景，目的，FB 活動における負担，FB 活動における食品の保存，配送方法，FB 活動の課題点等について調査した．回答は全て記述式である．

以下の表 3-2 に FB 活動団体への予備アンケート調査項目を示す．また，付録 1 に予備アンケート調査票を記載する．

表 3-2 FB 活動団体への予備アンケート調査項目

問	質問項目	回答方式
問1	FB活動を開始した背景	記述式
問2	FB活動を実施するにあたっての目的	記述式
問3	運営において、どのような役割の人、それぞれの役割の人数	記述式
問4	食品の収集・配達・運営にかかる年間経費	記述式
問5	食品の収集経費・配達経費・運営経費はどこが負担	記述式
問6	2015年度の食品の取扱量、その内訳	記述式
問7	食品を収集する方法	記述式
問8	収集した食品の保存方法	記述式
問9	収集した食品を福祉施設などに配達する方法	記述式
問10	企業・他団体・個人が食品を寄付する方法	記述式
問11	企業や他団体とはどのような連携	記述式
問12	問11で挙げた連携を図っている具体的な企業名や団体名	記述式
問13	現在の課題点	記述式
問14	問13で挙げた課題点を解決する方法	記述式

### 3-2-5 返信状況

40 団体に予備アンケート調査票を送り、有効回答数は 10 団体、回答率は 25%である。

## 3-3 食品提供企業への予備アンケート調査

### 3-3-1 調査目的

食品提供企業からみた FB の現状把握を目的とする。

### 3-3-2 調査対象

2016 年 10 月実施の FB 活動団体への予備アンケート調査で返送があった 10 団体の中から選定した FB 活動団体 M (表 3-1) と関わりのある食品提供企業 12 社とする。FB 活動団体 M の選定理由としては、予備アンケート調査の結果から、食品の収集・配達において他の FB 活動団体には無い物流企業との連携を図っており、物流企業と連携を図った FB 活動の実態を知るため選定をした。

以下の表 3-3 に詳細を示す。

表 3-3 予備アンケート調査対象 (食品提供企業)

食品提供企業	食品提供企業
A	C
B	D

### 3-3-3 調査時期

2017年4月5日から4月15日にかけて、調査対象とするFB活動団体Mと連携を図る食品提供企業12社の連絡先が公開されていないため、FB活動団体M（表3-1）を通じて、メールにより実施した。

### 3-3-4 調査内容

FB活動団体M（表3-1）との連携の内容、FB活動団体M（表3-1）との連携での負担、利益、効果、FB活動団体M（表3-1）との連携での課題点等について調査した。回答は全て記述式である。

以下の表3-4に食品提供企業への予備アンケート調査項目を示す。また、付録2に予備アンケート調査票を記載する。

表3-4 食品提供企業への予備アンケート調査項目

問	質問項目	回答方式
問1	FB活動団体Mと連携を始めた年	記述式
問2	FB活動団体Mと連携に至った経緯	記述式
問3	FB活動団体Mとの連携の内容	記述式
問4	FB活動団体Mとの連携における負担	記述式
問5	FB活動団体Mとの連携による利益や効果	記述式
問6	FB活動団体Mとの連携における課題	記述式
問7	企業から今後のFB活動への展望	記述式
問8	今後企業がFB活動団体と連携を促進するため必要なこと	記述式

### 3-3-5 返信状況

12社に予備アンケート調査票を送り、有効回答数は4社、回答率は33%である。

## 3-4 社会福祉施設等への予備アンケート調査

### 3-4-1 調査目的

社会福祉施設等からみたFBの現状把握を目的とする。

### 3-4-2 調査対象

2016年10月実施のFB活動団体への予備アンケート調査で返送があった10団体の中から堀（調査担当者）が選定した、FB活動団体M（表3-1）と関わりのある社会福祉施設等30施設とする。FB活動団体Mの選定理由としては、予備アンケート調査の結果から、食品の収集・配達において他のFB活動団体には無い物流企業との連携を図っており、物流企業と連携を図ったFB活動の実態を知るため選定をした。

以下の表3-5に詳細を示す。



表 3-5 予備アンケート調査対象（社会福祉施設等）

社会福祉施設等	社会福祉施設等
A	F
B	G
C	H
D	I
E	J

### 3-4-3 調査時期

2017年4月5日から4月15日にかけて、調査対象とするFB活動団体Mと連携を図る社会福祉施設等30施設の連絡先が公開されていないため、FB活動団体M（表3-1）を通じて、メールによる実施した。

### 3-4-4 調査内容

FB活動団体M（表3-1）との連携の内容、FB活動団体M（表3-1）との連携での負担、利益、効果、FB活動団体M（表3-1）との連携での課題点等について調査した。回答は全て記述式である。

以下の表3-6に社会福祉施設等への予備アンケート調査項目を示す。また、付録3に予備アンケート調査票を記載する。

表 3-6 社会福祉施設等への予備アンケート調査項目

問	質問項目	回答方式
問1	FB活動団体Mと連携を始めた年	記述式
問2	FB活動団体Mと連携に至った経緯	記述式
問3	FB活動団体Mとの連携の内容	記述式
問4	FB活動団体Mとの連携における負担	記述式
問5	FB活動団体Mとの連携による利益や効果	記述式
問6	F活動団体Mとの連携における課題	記述式
問7	企業から今後のFB活動への展望	記述式
問8	今後施設等がFB活動団体と連携を促進するため必要なこと	記述式

### 3-4-5 返信状況

30施設に予備アンケート調査票を送り、有効回答数は10施設、回答率は33%である。

### 3-5 FB活動団体への本アンケート調査

#### 3-5-1 調査目的

これまでの調査より選定したFB活動の課題について、各課題の対策の把握を目的とする。

#### 3-5-2 調査対象

2017年7月時点、農林水産省HP<sup>1)</sup>に記載されている、FB活動団体75団体とする。

以下の表3-7に詳細を示す。

表3-7 本アンケート調査対象（FB活動団体）

FB活動団体	FB活動団体	FB活動団体	FB活動団体	FB活動団体
A	S	i	x	Mm
B	T	j	y	Nn
C	U	k	z	Oo
D	V	l	Aa	Pp
E	W	m	Bb	Qq
F	X	n	Cc	Rr
G	Y	o	Dd	Ss
J	Z	p	Ee	Tt
L	a	q	Ff	Uu
M	b	r	Gg	Vv
N	c	s	Hh	Ww
O	d	t	Ii	Xx
P	e	u	Jj	Yy
Q	g	v	Kk	Zz
R	h	w	Ll	AAA

#### 3-5-3 調査時期

2017年7月25日から8月15日にかけて、郵送により実施した。

#### 3-5-4 調査内容

FB活動における課題の対策について、食品提供企業と社会福祉施設等について調査した。回答は選択式と記述式である。

以下の表3-8にFB活動団体への本アンケート調査項目を示す。また、付録4に本アンケート調査票を記載する。

表 3-8 FB 活動団体への本アンケート調査項目

問	質問項目	回答方式	問	質問項目	回答方式
問1	FB活動における課題の有無と各課題の深刻度	選択式	問2-12	問2-7の対策の改善点	記述式
問2-1	問1に示した課題の対策	記述式	問2-13	問1に示した課題の対策	記述式
問2-2	問2-1の対策の実施時期	選択式	問2-14	問2-13の対策の実施時期	選択式
問2-3	問2-1の対策の注意点	記述式	問2-15	問2-14の対策の注意点	記述式
問2-4	問2-1の対策が問1のどの課題に該当するか	選択式	問2-16	問2-15の対策が問1のどの課題に該当するか	選択式
問2-5	問2-1の対策の課題解決の程度	選択式	問2-17	問2-16の対策の課題解決の程度	選択式
問2-6	問2-1の対策の改善点	記述式	問2-18	問2-17の対策の改善点	記述式
問2-7	問1に示した課題の対策	記述式	問3	食中毒のリスクを避けるための取り組みの有無	選択式
問2-8	問2-7の対策の実施時期	選択式	問4	問3の具体的な取り組み内容	記述式
問2-9	問2-7の対策の注意点	記述式	問5	FB活動において食品の事故が起こった際の責任の所在	選択式
問2-10	問2-7の対策が問1のどの課題に該当するか	選択式	問6	連携されている食品提供企業と社会福祉施設等へのアンケートの是非	選択式
問2-11	問2-7の対策の課題解決の程度	選択式			

### 3-5-5 返信状況

75 団体に本アンケート調査票を送り、有効回答数は 20 団体、回答率は 27%である。

## 3-6 食品提供企業への本アンケート調査

### 3-6-1 調査目的

農林水産省 HP に記載されている、FB 活動の手引きの項目について、現場での各項目の実現可能性について把握することを目的とする。

### 3-6-2 調査対象

FB 活動団体への本アンケート調査の質問項目で、現在、FB 活動団体と連携している食品提供企業へのアンケート調査を了承していただいた食品提供企業とする。

以下の表 3-9 に詳細を示す。

表 3-9 本アンケート調査対象（食品提供企業）

食品提供企業	食品提供企業
D	G
E	H
F	

### 3-6-3 調査時期

2017 年 11 月 8 日から 11 月 30 日にかけて、メールと郵送により実施した。

### 3-6-4 調査内容

FB 活動団体との連携について、FB 活動団体との連携の実施について、FB 活動における食品の取り扱いの手引きについて調査した。回答は選択式と記述式である。

以下の表 3-10 に食品提供企業への本アンケート調査項目を示す。また、付録 5 に本アンケート調査票を記載する。

表 3-10 食品提供企業への本アンケート調査項目

問	質問項目	回答方式	問	質問項目	回答方式
問1-1	FB活動を知ったきっかけ	選択式	問1-9	不安な要素がありながら連携を図った理由	記述式
問1-2	連携しているFB活動団体を知ったきっかけ	選択式	問2-1	FB活動団体との連携の形	選択式
問1-3	FB活動団体との連携の働きかけ	選択式	問2-2	寄付食品の中でより多くの寄付を行った食品	選択式
問1-4	企業からFB活動団体への働きかけ	記述式	問2-3	寄付食品以外でより多く寄付を行った寄付品	選択式
問1-5	FB活動団体から企業への働きかけ	記述式	問2-4	寄付金の金額について	記述式
問1-6	FB活動団体と連携を図る決め手	記述式	問3-1	農水省に記載されているFB活動における手引きの存在	選択式
問1-7	FB活動団体との連携での不安な要素の有無	選択式	問3-2	FB活動における手引きの項目が実際に実現可能か	選択式
問1-8	問7の不安な要素の詳細	記述式			

### 3-6-5 返信状況

40 社に本アンケート調査票を送り、有効回答数は 5 社、回答率は 13%である。

## 3-7 社会福祉施設等への本アンケート調査

### 3-7-1 調査目的

FB 活動団体と連携している社会福祉施設等において、寄付される食品のマッチング面での現状と今後について把握することを目的とする。

### 3-7-2 調査対象

FB 活動団体への本アンケート調査の質問項目で、現在、FB 活動団体と連携している社会福祉施設等へのアンケート調査を了承していただいた社会福祉施設等とする。

以下の表 3-11 に詳細を示す。

表 3-11 本アンケート調査対象（社会福祉施設等）

社会福祉施設等	社会福祉施設等	社会福祉施設等	社会福祉施設等
D	N	R	V
E	O	S	W
K	P	T	X
L	Q	U	Y
M			

### 3-7-3 調査時期

2017年11月8日から11月30日にかけて、メールと郵送により実施した。

### 3-7-4 調査内容

FB活動団体との連携について、FB活動の実施について調査した。回答は選択式と記述式である。

以下の表3-12に社会福祉施設等への本アンケート調査項目を示す。また、付録6に本アンケート調査票を記載する。

表3-12 社会福祉施設等への本アンケート調査項目

問	質問項目	回答方式	問	質問項目	回答方式
問1-1	FB活動を知ったきっかけ	選択式	問1-9	不安な要素がありながら連携を図った理由	記述式
問1-2	連携しているFB活動団体を知ったきっかけ	選択式	問2-1	FB活動団体から施設・団体へ寄付していただく頻度	記述式
問1-3	FB活動団体との連携の働きかけ	選択式	問2-2	現在の寄付の頻度は適切な回数か	選択式
問1-4	施設・団体からFB活動団体への働きかけ	記述式	問2-3	施設・団体が希望する適切な寄付の回数	記述式
問1-5	FB活動団体から施設・団体への働きかけ	記述式	問2-4	FB活動団体からの寄付品の中で多い寄付品	選択式
問1-6	FB活動団体と連携を図る決め手	記述式	問2-5	施設・団体が希望する寄付品とFB活動団体からの寄付品のマッチング	選択式
問1-7	FB活動団体との連携での不安な要素の有無	選択式	問2-6	実際に施設・団体が希望している寄付品	選択式
問1-8	問7の不安な要素の詳細	記述式	問2-7	希望する寄付品を頂けるための施設・団体での工夫点	記述式

### 3-7-5 返信状況

45施設に本アンケート調査票を送り、有効回答数は17施設、回答率は38%である。

## 3-8 FB活動団体への追加アンケート調査

### 3-8-1 調査目的

FB活動団体への本アンケート調査の結果から得た、FB活動の促進策の解決可能性や実現可能性について把握することを目的とする。

### 3-8-2 調査対象

FB活動団体への本アンケート調査で返送があったFB活動団体20団体を対象とする。

以下の表3-13に詳細を示す。

表 3-13 追加アンケート調査対象 (FB 活動団体)

FB活動団体	FB活動団体	FB活動団体	FB活動団体
A	Z	u	Jj
C	c	v	Oo
G	h	y	Qq
M	i	z	Zz
O	o	Ii	AAA

### 3-8-3 調査時期

2017年11月15日から12月6日にかけて、郵送により実施した。

### 3-8-4 調査内容

FB 活動における促進策の解決可能性と実現可能性について調査した。回答は全て選択式である。

以下の表 3-14 に FB 活動団体への追加アンケート調査項目を示す。また、付録 7 に追加アンケート調査票を記載する。

表 3-14 FB 活動団体への追加アンケート調査項目

問	質問項目	回答方式
問1	提供される食品の質と量の両面での確保が困難に対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式
問2	FB活動の認知度が低いに対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式
問3	FB活動の運営資金が少ないに対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式
問4	FB活動における人員が少ないに対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式
問5	食品をいただける食品提供先が少ないに対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式
問6	他のFB活動団体と連携が密にとられていないに対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式
問7	FB活動の運営能力が乏しいに対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式
問8	食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図られていないに対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式
問9	食品の寄贈を受け食品を活用する社会福祉施設等が不足に対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式
問10	リピーターの方々への生活再建支援に対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式
問11	FB活動で根本的な問題が解決とならないケースへの提供判断に対する促進策の解決可能性と実現可能性	選択式

### 3-8-5 返信状況

20 団体に追加アンケート調査票を送り、有効回答数は 10 団体、回答率は 50%である。

### 3-9 アンケート回答 FB 活動団体・企業・施設のアルファベット表記について

FB 活動団体への調査において、対象となる FB 活動団体は、農林水産省 HP を参照した

が、2016年10月の予備アンケート調査実施時点では40団体、2017年7月の本アンケート調査実施時点では75団体に記載された数が増えたため、各種アンケート調査ごとにアルファベットで表記を行った。また、企業・施設への調査においても、同様にアルファベットで表記を行った。付録8にアルファベットのリスト表を記載する。

<参考文献>

- 1) 農林水産省：フードバンク <[www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/foodbank.html](http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/foodbank.html)>，2017-7-5

## 第四章 FB 活動団体・食品提供企業・社会福祉施設等の実態把握

### 4-1 はじめに

本章では、FB 活動団体・食品提供企業・社会福祉施設等への予備アンケート調査より結果の考察を行う。

### 4-2 本章の目的

FB 活動団体とその協力企業，社会福祉施設等の実態を食品ロスの収集，保存，配達等の面から把握すること（目的1）を目的とする。

### 4-3 調査方法

3-2 (FB 活動団体への予備アンケート調査)，3-3 (食品提供企業への予備アンケート調査)，3-4 (社会福祉施設等への予備アンケート調査) で述べたとおりである。

### 4-4 調査対象

3-2 (FB 活動団体への予備アンケート調査)，3-3 (食品提供企業への予備アンケート調査)，3-4 (社会福祉施設等への予備アンケート調査) で述べたとおりである。

### 4-5 調査結果

FB 活動団体への予備アンケート調査結果，食品提供企業への予備アンケート調査結果，社会福祉施設等への予備アンケート調査結果をもとに考察を行う。

#### 4-5-1 FB 活動団体から見た FB 活動の概要について

4-5-1 は，FB 活動団体への予備アンケート調査結果に基づく。

##### 4-5-1-(1) 各 FB 活動団体の FB 活動の目的

FB 活動団体の FB 活動を開始した背景について表 4-1 に示す。



表 4-1 各 FB 活動団体の FB 活動の目的 (n=10)

分類	活動目的	団体名
福祉施設・団体および困窮する個人（世帯）の支援	年間大量に廃棄されている食品を無償で提供し必要としている施設に無償で配送し環境問題と福祉問題の仲介役になることを目的とする	A
	今、食糧を必要としている人に、食材を届ける	C
	行政等の手が届きにくい生活困窮者を食の面から支援する	G
	寄贈された食品を無駄なく生活困窮者に支援すること	O
	余剰食品を集め、福祉施設・団体および困窮する個人（世帯）の支援を行う	P
	まだ十分食べられる食品を、必要としている個人や福祉施設などへ橋渡しをすること	k
貧困問題と食品ロスという環境問題への社会貢献	社会貢献	H
	「食品ロス」を削減することは、廃棄物の排出量・最終処分量、温室効果ガス、水資源の使用量の削減、焼却時のエネルギーロスの削減等の環境負荷低減効果が大きい	M
	社会の食品ロスの削減に向けた意識の醸成を図る	U
	貧困問題と食品ロスという環境面の問題の双方を解決するために社会貢献すること	Z
余剰食品の有効活用	まだ食べられる食品を有効活用する	G
	余剰食品の有効活用	H
	食べられるにもかかわらず処分されている食品を、福祉活動に寄付して食べることで処分される食品を減らす	M
	食品ロスをなくし有効活用すること	O
困窮者の働く場を拡大	困窮者の働く場を拡大する	P
心豊かに暮らしていく社会を創造	生活困窮者への食糧支援を通して、だれもが食を分かちあい心豊かに暮らしていける社会を創ることを目的とする	U
食生活を安定させ極貧の中にある生活苦を改善	食生活を安定させることから極貧の中にある生活苦を改善すること	Z
農作物を無駄なく活用	農家さんの苦勞に少しでも報いる	C

表 4-1 から、最も多い回答として、「福祉施設・団体および困窮する個人（世帯）の支援を行う」が挙げられた。次いで、「貧困問題と食品ロスという環境問題に社会貢献すること」、「余剰食品の有効活用」が挙げられた。FB 活動の目的としては、施設・団体、個人への支援という社会福祉の点が多くみられた。

#### 4-5-1-(2) 各 FB 活動団体の FB 活動における経費負担

各 FB 活動団体の FB 活動における経費負担について表 4-2 に示す。

表 4-2 各 FB 活動団体の FB 活動における経費負担 (n=10)

経費の負担	団体名
当団体が負担	O
	P
	Z
収集経費：食品を提供していただく企業や個人が負担	A
配達経費：当団体の会費・寄付金と行政からの助成金	G
運営経費：当団体の会費・寄付金と行政からの助成金	U
収集経費：会員が負担	C
配達経費：会員が負担	
運営経費：イオン『黄色いレシート』団体登録の寄付金	
収集経費・配達経費・運営経費のように数字は出していない	M
物流経費：各施設・団体等が負担	
収集経費：一部が寄贈企業や農家が負担し、その他は当団体が負担	k
配達経費：当団体が負担	
運営経費：当団体の会費・寄付金と行政からの助成金	

表 4-2 から、最も多い回答として、「当団体が負担」が挙げられた。しかし、他の団体も含め大半の経費の負担が FB 活動団体の会費で成り立っていることが読み取れる。そのような中、FB 活動団体 M は物流経費という形で FB 活動団体 M 側の負担ではなく食品を受け取る施設・団体が負担するシステムを構築しているようだ。

#### 4-5-1-(3) 各 FB 活動団体の FB 活動における食品の収集方法

各 FB 活動団体の FB 活動における食品の収集方法について表 4-3 に示す。

表 4-3 各 FB 活動団体の FB 活動における食品の収集方法 (n=10)

分類	収集方法	団体名
食品を譲り受ける企業から食品を車で送ってもらう	企業や団体からは食品を車または宅配便で送ってもらう	G
	食品提供企業から倉庫まで宅配便やチャーター便にて届けていただく	H
	特定の企業または団体は車で配送される	O
	食品を譲り受ける企業から食品を車で送ってもらう	P
	主として持ち込みもしくは輸送・宅配をお願いしている	U
	原則として企業から宅配便等で送ってもらっている	k
食品を譲り受ける企業まで食品を取りに行く	市内と近郊の企業は当団体のスタッフがいただきに伺う	A
	一定日にTELにて確認し車で取りに行く	C
	企業はケースバイケースで検討の上、車で取りに行く	O
	受け取り窓口まで取りに行く	P
	企業から大量の食糧を定期的に受け入れる時は食糧を譲ってもらう場所まで取りに行く	Z
	不定期のもので、FBKが引き取りに行くこともある	k
各企業が運送費を負担して送る	各企業が運営費を負担して送ってくださる	A
物流企業に依頼して集荷	物流企業に依頼して集荷するケース	M
食品企業が物流センターに納品	食品企業がFB活動団体Mの指定する物流センターに納品する両方のケー	M
単発の場合や個人からの食糧の寄付の場合は寄贈者の送料負担での配達で受け入れる	大量であっても単発の場合や個人からの食糧の寄付の場合は寄贈者の送料負担での配達で受け入れる	Z
野菜等の日持ちがしない食品について、事務所への持ち込み時のみ受け入れる	定期的であっても野菜等の日持ちがしない食品については、事務所への持ち込み時のみ受け入れている	Z

表 4-3 から、食品の収集方法としては、「食品を譲り受ける企業から食品を車で送ってもらう」、「食品を譲り受ける企業まで食品を取りに行く」の二つの方法に多くが分類される。その他として、「物流企業に依頼して集荷する」といった食品の収集を物流企業に委託するという団体も見られた。

#### 4-5-1-(4) 各 FB 活動団体の FB 活動における食品の保存方法

各 FB 活動団体の FB 活動における食品の保存方法について表 4-4 に示す。

表 4-4 各 FB 活動団体の FB 活動における食品の保存方法 (n=10)

分類	保存方法	団体名
常温で保存のみを扱うので、当団体の倉庫に保管	賞味期限や常温保存できるものは倉庫で保存	A
	常温などで保管できる賞味期限余裕あるものについては、要生活支援者用に自宅車庫・冷蔵庫に保管する事も有る	C
	基本的に常温保存できるもののみ扱っているため、当団体の倉庫で保存	G
	事務所内の倉庫で保管	O
	常温で保存できるもののみを扱うので、当団体の事務所兼倉庫に保管	P
	常温で保存できるものしか扱わないため、当法人の倉庫兼作業所で保管している	U
	常温で保存できるものしか基本的には扱わない	Z
業務用冷凍庫、冷蔵庫で保存	専用倉庫(冷凍と冷蔵)	H
	冷凍・冷蔵も含め全ての食品を扱える体制としている	M
	米については専用保冷庫あり	P
	業務用冷凍庫、冷蔵庫で保存	k
集荷後早く出荷し、食品の保存を発生させない	主に集荷したその日に配布してしまう	C
	FB活動団体Mとしては集荷後できるだけ早く出荷し、食品の保存が発生しないようにすることを基本方針としている	M
	野菜等の日持ちのしない食品の場合は、即日で配給し、その日の内に全て配り終	Z
食品の収集、保管、結束、伝票貼付、出荷等は専門の物流企業が行う	食品の収集、保管、結束、伝票貼付、出荷等は専門の物流企業が行う	M
食品衛生上の問題を考慮してCLSC関係者が、直接食品に触れることはない	食品衛生上の問題を考慮してCLSCの関係者が、直接食品に触れることはない	M

表 4-4 から、食品の保存方法としては、「倉庫での常温保存」、「冷凍庫・冷蔵庫で保存」の二つの方法に多くが分類される。しかし、「食品の集荷後早く出荷し、食品の保存を発生させない」という方法も見られた。

#### 4-5-1-(5) 各 FB 活動団体の FB 活動における食品の配達方法

各 FB 活動団体の FB 活動における食品の配達方法について表 4-5 に示す。

表 4-5 各 FB 活動団体の FB 活動における食品の配達方法 (n=10)

分類	配達方法	団体名
施設・団体の車でFB活動団体に取りに来てもらう	地方の施設は拠点に取りにくる	A
	福祉施設等に取りに来てもらう	G
	近いところは倉庫まで受け取りに来ていただく	H
	施設・団体の車で取りに来てもらう	P
	主として、月に1回ほどの一斉配布の日を定め、事前に申し込みをいただいた施設に倉庫まで取りに来てもらっている	U
	個人や各施設に受取りに来てもらう	k
施設・団体へは、FB活動団体の車両で配達	当団体の車両で配達	G
	団体が所持している車で配達する	O
	施設・団体へは、当団体の車両で配達する	P
車を所有するFB活動団体のメンバーが自家用車で配達	配達する施設はすべて当団体のスタッフの手で配達	A
	都合のつく会員総出で仕分け、配達する日が週一	C
	車を所有しているメンバーが自家用車を使用して配達する	Z
連携する他団体に配達を仲介してもらう	連携する他団体に配達を仲介してもらう	G
生協の物流を利用	生協の物流を利用して	H
食品企業の物流センターや倉庫等から出荷されたままの状態直接施設に届ける	食品企業の物流センターや倉庫等から出荷されたままの状態直接施設に届けます	M
個人（世帯）へは、9割が宅配便で配達、1割が支援団体に取りに来てもらう	個人（世帯）へは、9割が宅配便で配達、1割が支援団体に取りに来てもらう	P
配達ボランティアによる配達（ガソリン代を適宜支払う）	配達ボランティアによる配達	k

表 4-5 から、食品の配達方法としては、「施設・団体の車で FB 活動団体に取りに来てもらう」、「施設・団体へは、FB 活動団体の車両で配達する」、「車を所有する FB 活動団体のメンバーが自家用車で配達」の三つの方法に多くが分類される。しかし、「他の団体に配達の手介を委託」や「物流センターから配達する」など他企業・団体との連携も見られた。

#### 4-5-1-(6) 各 FB 活動団体の FB 活動における課題点

各 FB 活動団体の FB 活動における課題点について表 4-6 に示す。

表 4-6 各 FB 活動団体の FB 活動における課題点 (n=10)

分類	課題点	団体名
運営資金の確保	行政や社会福祉協議会などは、生活困窮者への食品の要請はくるのに助成金はない	A
	事業からは収益を生まないという課題	G
	運営資金を支える企業を増やしたい	H
	運営費が不足しています	P
	運営資金の確保	U
	運営するにあたって各メンバーの持ち寄りで活動を維持していること	Z
食品を収集、配達する人員不足	食品を収集、配達する人が足りない	O
	利用世帯数が急激に増加する一方で、メンバーの数が緩やかにしか増えず、メンバーの負担が大きなものとなっている	Z
食品の収集量を増やす	食品提供企業として提供して下さる企業が少ない	H
	食品の収集量も増やさなければならぬのが課題です	P
生活困窮者の支援に関して、自治体の福祉関連組織との緊密な連携が必要	道内の企業はまだフードバンク活動に関心が少ないため連携の強化が必要	A
	生活困窮者の支援に関して、自治体の福祉関連組織との緊密な連携が必要	k
若い年代の会員が少ない	会員、特に若い会員が少ない	C
受入先がなく廃棄に回った食品の発生	受入先がなく廃棄に回った食品も相当数出ている	M
全体の業務をできるだけ合理化、システム化	全体の業務をできるだけ合理化、システム化することである	
ボランティアの育成と定着	ボランティアの育成と定着	U

表 4-6 から、最も多い回答として、「運営資金の確保」が挙げられた。その他としては、「食品の収集、配達する人手不足」、「食品の収集量を増やす」や「自治体との連携」など幅広い視点で課題点が挙げられた。

#### 4-5-2 食品提供企業から見た FB 活動の概要について

4-5-2 は、FB 活動団体 M と連携する食品提供企業への予備アンケート調査結果に基づく。

##### 4-5-2-(1) 各食品提供企業が FB 活動団体 M と連携を結んだ経緯

各食品提供企業が FB 活動団体 M と連携を結んだ経緯について表 4-7 に示す。

表 4-7 各食品提供企業が FB 活動団体 M と連携を結んだ経緯 (n=4)

FB活動団体Mと連携の経緯	食品提供企業名
新聞記事を確認し、こちらから連絡をとった	A
広告代理店を通じてFB活動団体Mを紹介頂いた	B
FB活動団体Mから食品提供要請	C
関東農林水産関連企業環境対策協議会での公演を聴講後、協議して進めた	D

表 4-7 から、「食品提供企業から FB 活動団体 M へ連絡」や「FB 活動団体 M から食品提供企業へ連絡」が挙げられたが、他の方法として、「他の業種の企業から FB 活動団体 M を紹介していただく」というビジネスマッチングにより連携を結んだ企業も挙げられた。

#### 4-5-2-(2) 各食品提供企業の FB 活動団体 M との連携での経費負担

各食品提供企業の FB 活動団体 M と連携との連携での経費負担について表 4-8 に示す。

表 4-8 各食品提供企業の FB 活動団体 M との連携での経費負担 (n=4)

分類	FB活動団体Mと連携での負担	食品提供企業名
FB活動団体Mと連携する物流企業への配送費の負担	配送費がかかる	B
	FB活動団体Mへマッチング手数料の支払い	C
	FB活動団体Mの物流協力企業への搬送費を弊社で負担	D
負担はほぼない	負担はほぼありません	A

表 4-8 から、経費の負担として、「物流に関する経費」が挙げられた。一般的に FB 活動は無償で行われる。しかし、無償で行うとしても物流経費や人件費など経費はかかるため、表 4-6 の課題点で「運営資金の確保」が課題点として多く挙げられていると考える。その点 FB 活動団体 M では物流に関する経費は企業に負担してもらうため経費削減に繋がっていると考える。

#### 4-5-2-(3) 各食品提供企業の FB 活動団体 M との連携での利益や効果

各食品提供企業の FB 活動団体 M との連携での利益や効果について表 4-9 に示す（記述式回答を掘が分類）。

表 4-9 各食品提供企業の FB 活動団体 M との連携での利益や効果 (n=4)

分類	FB活動団体Mと連携での利益や効果	食品提供企業名
食品処分コストの低減と社内での社会貢献及び環境意識の向上	食品を処分する際にかかるコストが削減された	A
	食品を処分する際にかかるコストが低減	C
	食品処分コストの低減と社内での社会貢献及び環境意識の向上	D
ESG投資	ESG投資として考えている	B

表 4-9 から、最も多い回答として、「食品処分コストの低減と社内での社会貢献及び環境意識の向上」が挙げられた。その他として、「ESG 投資」が挙げられた。ESG 投資は、環境、社会、ガバナンスの三つの観点から成り立つもので企業の成長に欠かせないものとされている<sup>1)</sup>。

#### 4-5-2-(4) 各食品提供企業の FB 活動団体 M との連携での課題点

各食品提供企業の FB 活動団体 M との連携での課題点について表 4-10 に示す。

表 4-10 各食品提供企業の FB 活動団体 M との連携での課題点 (n=4)

分類	FB活動団体Mと連携での課題点	食品提供企業名
賞味の短い商品は取扱できない	賞味の短い商品は取扱できないこと	A
本来は、食品ロスがない製販売を行うことが大切	本来は、食品ロスがない製販売を行うことが大切	B
施設が希望される商品と弊社が提供できる商品がマッチングしない	施設が希望される商品と弊社が提供できる商品がマッチングしない場合がある	C
特になし	特になし	D

表 4-10 から、「賞味の短い商品は取り扱えない」、「施設が希望する商品と提供できる商品がマッチングしない」という課題が挙がる中、「食品ロスを発生しない販売を行う」という企業側の根本的な課題も挙げられた。

#### 4-5-3 各社会福祉施設等から見た FB 活動の概要について

4-5-3 は、FB 活動団体 M と連携する社会福祉施設等への予備アンケート調査結果に基づく。

##### 4-5-3-(1) 各社会福祉施設等が FB 活動団体 M と連携を結んだ経緯

各社会福祉施設等が FB 活動団体 M と連携を結んだ経緯について表 4-11 に示す。

表 4-11 各社会福祉施設等が FB 活動団体 M と連携を結んだ経緯 (n=10)

分類	連携までの経緯	福祉施設名
FB活動団体Mからメール等にて受け入れ施設の募集があった	食品の寄付を受け入れていただく施設を募集しています」趣旨のメール連絡がきた	A
	要請をいただき、FB活動団体Mの活動の趣旨に賛同したことから連携させていただくこととなりました。	B
	FB活動団体Mから食品が必要ではないかと連絡がきた。	D
	FB活動団体Mからメールで案内がきた	E
	メールによる呼びかけ、提供される食品の表から希望の品物の数量を申し込みました。	F
	FB活動団体Mからメールにて受け入れ施設の募集があった	G
	FB活動団体Mから食品が必要ではないかと連絡がきた	H
	FB活動団体Mから食品が必要ないかと連絡をいただいた。	I
	FB活動団体Mより法人へ案内が来た	J
	取引先の銀行の行員からの紹介	取引先の銀行の行員からの紹介。

表 4-11 から、最も多い回答として、「FB 活動団体 M からメールにて受け入れ施設の募集があった」が挙げられ、FB 活動団体からの連絡が多くを占めた。その他として、「銀行員からの紹介」が挙げられた。



#### 4-5-3-(2) 各社会福祉施設等の FB 活動団体 M との連携での経費負担

各社会福祉施設等の FB 活動団体 M との連携での経費負担について表 4-12 に示す。

表 4-12 各社会福祉施設等の FB 活動団体 M との連携での経費負担 (n=10)

分類	連携による負担	福祉施設名
物流企業に食品を輸送してもらい、送料を支払っている	FB活動団体Mへ輸送費を支払っている	A
	食品を輸送してくれる物流企業に輸送費を支払っている	B
	物流企業に食品を輸送してもらい、送料を支払っている	C
	食品を輸送してくれる物流企業に輸送費を支払っている	D
	輸送費をFB活動団体Mへ支払っている	E
	輸送費はこちらへ翌月の10日に請求され振り込んでいる	F
	FB活動団体Mへ、食品の送料のみお支払いをしています	G
	FB活動団体Mから指示された輸送費をFB活動団体Mにお支払いしている	H
	食品の輸送費を支払っている	I
	輸送費を支払っている	J

表 4-12 から、全ての団体が経費負担として、「物流企業に食品を輸送してもらい、送料を支払っている」が挙げられた。このことから、FB 活動団体 M との連携での FB 活動は、食品を提供していただく企業へ、食品をいただく社会福祉施設等が食品の配送費を支払うシステムとなっていることが考えられる。

#### 4-5-3-(3) 各社会福祉施設等の FB 活動団体 M との連携での利益や効果

各社会福祉施設等の FB 活動団体 M との連携での利益や効果について表 4-13 に示す。

表 4-13 各社会福祉施設等の FB 活動団体 M との連携での利益や効果 (n=10)

分類	施設への利益や効果	福祉施設名
食品を購入するコストを削減することができる	食品を購入するコストを削減することができた	A
	経費削減	B
	食品を購入するコストを削減することができた	D
	食品を購入するコストを削減することができた	E
	食材が安価で（送料のみ）、他の食材料費にも余裕が生まれた	G
	食品を購入するコストを削減することができた	H
	食品を購入するコストを削減することができた	I
普段購入できない品も、寄贈品の中に入れており料理のレパートリーも増えた	普段購入できない品も、寄贈品の中に入れており料理のレパートリーも増えた	G
	献立のバリエーションが広がった	J
ロスになる食品を使用することによる、社会貢献	「食品ロス」を日本で少なくする運動に加わっている	F
	ロスになる食品を使用することで、社会貢献にもなっている	G
施設利用者様の昼食代の負担が最小限に抑えることが出来る	施設利用者様の昼食代の負担が最小限に抑えることが出来ること	C

表 4-13 から、最も多い回答として、「食品を購入するコストを削減することができる」が挙げられた。その他としては、「料理のレパートリーが増える」や「社会貢献になっている」という回答が挙げられた。

#### 4-5-3-(4) 各社会福祉施設等の FB 活動団体 M との連携での課題点

各社会福祉施設等の FB 活動団体 M との連携での課題点について表 4-14 に示す。

表 4-14 各社会福祉施設等の FB 活動団体 M との連携での課題点 (n=10)

分類	連携での課題	福祉施設名
冷凍庫の容量の都合上、冷凍食品の受け入れに限りがあるため、常温保存可能な食品を増やしてもらいたい	冷凍食品が多く、現在の冷蔵庫では容量が小さく受け入れることができる食品の量に限りがある	A
	欲しい食品があっても冷蔵庫の容量の都合上、冷凍食品の受け入れに限りがあり、出来れば常温保存の出来る食品を増やしてもらいたい	C
	受け入れることができる食品の量に限りがある	D
	大型冷蔵庫を2台購入したが、まだ不足しているため受け入れ可能な食品の量に限りがある	E
	冷凍食品が多いので学園の冷凍庫に入る量に限界があるため多量には受け取れない	H
	冷凍食品等は受け入れすることができる食品量に限度がある	I
生鮮野菜等が増えることを期待している	野菜などの紹介が増えることを期待している	B
中国産など海外の食品は希望しない	気持ちの問題かも知れませんが中国産など海外の食品についてはつい希望しないことになりがちです	F
生鮮品等は、量が多すぎると使い切れず処分してしまう可能性も高いので、残念だが申し込みできなかった	生鮮品（前回キバリ）等は、量が多すぎると使い切れず処分してしまう可能性も高いので、残念だが申し込みできなかった	G
特になし	特になし	J

表 4-14 から、最も多い回答として、「保存できる容量に限りがあるため、常温保存可能な食品を増やしてもらいたい」が挙げられた。その一方、「生鮮野菜等を増やしてほしい」という回答も挙がっており、社会福祉施設等によって食品のニーズは様々であることが分かる。

## 4-6 まとめ

### 4-6-1 FB 活動団体の実態把握

FB 活動団体への予備アンケート調査の結果から、各 FB 活動団体の FB 活動の目的として、「福祉施設・団体および困窮する個人（世帯）の支援」が最も多い回答として挙げられた。しかし、農林水産省では、FB 活動は食品ロスを削減するための一つの手段<sup>2)</sup>として支援すると紹介されている。このことから、実際の FB 活動の現場では、食品ロスの削減という環境面での社会貢献ではなく、福祉施設や生活困窮者の支援という社会福祉面での社会貢献を目的として FB 活動を行っていると考えられる。

次に FB 活動における食品の収集・保存・配達の方法について記述する。まず、収集方法と配達方法においては、「食品を譲り受ける企業から食品を車で送ってもらう」、「食品を譲り受ける企業まで食品を取りに行く」や「施設・団体の車で FB 活動団体に取りに来てもらう」、「施設・団体へは、FB 活動団体の車両で配送する」、「車を所有する FB 活動団体のメンバーが自家用車で配達」が回答として多く挙げられた。そのような中で、FB 活動団体 M が物流企業へ収集・配達を委託しているという回答が挙げられていた。物流企業へ委託することで、日常の業務で利用している配送網を使用し、より効率的に食品の配達を行うことができるのではないかと考える。保存方法については、「倉庫での常温保存」が「冷凍庫・冷蔵庫で保存」より多い回答であった。このことから、食品の種類として、生鮮食品や冷凍食品よりも缶詰やお米等、常温の食品が FB 活動で多く扱われるのではないかと考える。

最後に、FB 活動における課題点について述べる。最も多い回答として、「運営資金の確保」が挙げられた。これは FB 活動の経費負担での回答から、収集・配達・運営経費のほとんどが FB 活動の会費となっており資金面での課題を読み取ることが出来る。その他の課題として挙げられた、「食品の収集、配達する人手不足」や「食品の収集量を増やす」の二つに共通することとして FB 活動の認知度の低さも関係しているのではないかと考える。

#### 4-6-2 食品提供企業の実態把握

食品提供企業への予備アンケート調査の結果から、FB 活動団体 M との連携での経費負担としては、配送を委託している物流企業へ配送費の負担が挙げられた。このことから、FB 活動団体 M という FB 活動団体が経費を負担することなく、配送が行われることが分かる。

次に、FB 活動団体 M との連携での利益や効果について述べる。最も多い回答として、「食品処分コストの低減と社内での社会貢献及び環境意識の向上」が挙げられた。企業側としては、食品の処分コストをかけることなく、CSR としても効果があるため、このような点が企業側に協力していただくために必要な点となるのではないかと考える。

最後に、FB 活動団体 M との連携での課題点について述べる。回答として、「賞味の短い商品は取り扱えない」が挙げられたが、これについては食品事故を未然に防ぐための対策であるため、課題の解決は難しそうだが、「施設が希望する商品と提供できる商品がマッチングしない」については、食品を提供して下さる企業との連携を強化することでニーズに応えることができると考える。そのためには、まず現在連携を結んでいる企業との関係を強化し、食品提供企業間の繋がり等で連携企業を増やすことができるのではないかと考える。

#### 4-6-3 社会福祉施設等の実態把握

社会福祉施設等への予備アンケート調査の結果から、FB 活動団体 M との連携での経費負担としては、食品を提供していただく企業への配送費の負担が挙げられた。このことから上記の食品提供企業の実態把握も踏まえて考えると FB 活動団体 M のシステムとして、食品を提供していただく企業が一旦配送料を払うが、後に施設等が配送費を企業へ支払う仕組

みであり、FB 活動団体 M にとっては配送に関するコストがかからないようになっていると考える。

次に、FB 活動団体 M との連携での効果について述べる。最も多い回答として、「食品を購入するコストを削減することができる」が挙げられた。社会福祉施設等は配送費を払うことになっているが、一般的に食品を購入するに比べ、配送費の方が安価で食品を確保できるため、食費の経費削減に繋がっていると考える。

最後に、FB 活動団体 M との連携での課題点について述べる。最も多い回答として、「保存できる容量に限りがあるため、常温保存可能な食品を増やしてもらいたい」が挙げられた。その一方で、「生鮮野菜等を増やしてほしい」という回答もあり、各社会福祉施設等によって食品に関するニーズは異なっている。この課題点については、多くの業種との連携を進めることや、生鮮野菜については、JA 等との連携を進めるのも良いのではないかと考える。

#### 4-6-4 FB 活動の課題の把握

FB 活動団体、食品提供企業、社会福祉施設等への予備アンケート調査結果と、農林水産省の平成 28 年 FB 本調査報告書<sup>3)</sup>より、FB 活動における課題の把握を行った。

FB 活動の課題を整理したものを表 4-15 に示す。

表 4-15 に整理した課題については、FB 活動団体への本アンケート調査において、各課題の対策について調査を行う。

表 4-15 3 種の予備アンケート調査結果と FB 本調査報告書から把握した課題

	FB活動における課題
1	提供される食品の質と量の両面での確保が困難である
2	FB活動の認知度が低い
3	FB活動の運営資金が少ない
4	FB活動における人員が少ない
5	食品をいただける食品提供先が少ない
6	日本の他のFB活動団体との連携が密にとられていない
7	FB活動の運営能力が乏しい
8	食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図れていない

#### <参考文献>

- 1) 年金積立金管理運用独立行政法人：ESG 投資 <<http://www.gpif.go.jp/operation/esg.html>>, 2017-12-6
- 2) 農林水産省：フードバンク <[www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/foodbank.html](http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/foodbank.html)>, 2017-7-5
- 3) 農林水産省：FB 本調査報告書 <[www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/161227\\_8.html#21foodbank](http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/161227_8.html#21foodbank)>, 2016-12-16

## 第五章 FB活動の課題と対策の要因把握

### 5-1 はじめに

本章では、FB活動団体・食品提供企業・社会福祉施設等への本アンケート調査より結果の考察を行う。

### 5-2 本章の目的

FB活動における課題の対策を整理し、対策の要因を把握すること（目的2）を目的とする。

### 5-3 調査方法

3-5（FB活動団体への本アンケート調査）、3-6（食品提供企業への本アンケート調査）、3-7（社会福祉施設等への本アンケート調査）で述べたとおりである。

### 5-4 調査対象

3-5（FB活動団体への本アンケート調査）、3-6（食品提供企業への本アンケート調査）、3-7（社会福祉施設等への本アンケート調査）で述べたとおりである。

### 5-5 調査結果

FB活動団体への本アンケート調査結果、食品提供企業への本アンケート調査結果、社会福祉施設等への本アンケート調査結果をもとに考察を行う。

#### 5-5-1 FB活動団体におけるFB活動での課題と対策について

5-5-1は、FB活動団体への本アンケート調査結果に基づく。

##### 5-5-1-(1) FB活動における課題の深刻度

FB活動における課題の深刻度について表5-1に示す。

表 5-1 FB活動における課題の深刻度 (n=19)

選択肢	深刻度1位	深刻度2位	深刻度3位	評価点合計
	(回答数*3)	(回答数*2)	(回答数*1)	
FB活動の運営資金が少ない	7票*3点	3票*2点	2票*1点	29
食品をいただける食品提供先が少ない	5票*3点	2票*2点	6票*1点	25
FB活動の認知度が低い	3票*3点	4票*2点	3票*1点	20
FB活動における人員が少ない		4票*2点	2票*1点	10
提供される食品の質と量の両面での確保が困難である	1票*3点	2票*2点	1票*1点	8
食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図れていない	1票*3点	1票*2点	2票*1点	7
FB活動の運営能力が乏しい			1票*1点	1
日本の他のFB活動団体との連携が密にとられていない				0

表 5-1 から、深刻度 1 位であれば回答数×3、深刻度 2 位であれば回答数×2、深刻度 3 位であれば回答数×1 で行った評価合計より、最も深刻度の高い課題としては、「FB 活動の運営資金が少ない」が挙げられた。その他の深刻度の高い課題としては、「FB 活動の認知度が低い」、「食品をいただける食品提供先が少ない」が挙げられた。

#### 5-5-1-(2) 「提供される食品の質と量の両面での確保が困難である」の対策

「提供される食品の質と量の両面での確保が困難である」の対策について表 5-2 に示す。

表 5-2 「提供される食品の質と量の両面での確保が困難である」の対策 (n=6)

分類	対策	対策実施時期	対策の評価	団体名
協力・連携	協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付	現在実施	かなり解決	v
	県内で活動する生協や労組と協議会設立		少し解決	0
	近隣のFB団体との連携			
広報	Facebook・ブログ・メディアへの情報提供・講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載	現在実施	少し解決	Z
	SNS・新聞・ラジオ・講演会・様々なイベントへ参加			0o
意識	FBの食品は、注文も予約もできない不安定な食材である事を知ってもらうため、「ときどき来るサンタさんと思ってください」と最初に配るフライヤーに記入	現在実施	かなり解決	C
他	フードドライブの実施	現在実施	少し解決	0
	入手したい食品を製造・流通で扱っている企業への働きかけを積極的に行い、信頼を得て提供へ繋がる努力			c

表 5-2 から、「提供される食品の質と量の両面での確保が困難である」の対策を四つに分類した。課題がかなり解決されたと評価された対策として、「協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB 事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」、「FB の食品は注文も予約もできない不安定な食材である事を知ってもらうため、ときどき来るサンタさんと思ってくださいと最初に配るフライヤーに記入」が挙げられた。

### 5-5-1-(3) 「FB 活動の認知度が低い」の対策

「FB 活動の認知度が低い」の対策について表 5-3 に示す。

表 5-3 「FB 活動の認知度が低い」の対策 (n=9)

分類	対策	対策実施時期	対策の評価	団体名
広報	地域包括支援センターや各種相談センター等にFB事業の周知を行い、FBが必要な対象者がいた場合、情報提供をしていただいている。	現在実施	かなり解決	v
	FBの周知、理解を促すための企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす		少し解決	AAA
	市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行い情報を提供する機会を設けている			y
	子ども食堂・子どもの貧困がマスコミで取り上げられる事が多く、その関係でFB活動も紹介されるためSNSを通じ発信			o
	HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布			u
	支援を受けた方へ会の活動を知っていただき本当に困っている方を支援できるようにHP・Facebookを利用し、民生委員の方へはチラシを配布			u
	Facebook・ブログ・メディアへの情報提供・講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載			Z
	Facebookを利用した呼びかけや、パンフレットの作成、メディアに取り上げてもらい情報を共有する機会を設けている。			A
	Facebook・ウェブ・講演会の積極的参加による広報			i
テレビ、新聞等での記事の広報。軽トラ市も開催し、生産農家様の協力も得ている。	まったく解決されていない	Ii		
他	行政には色々アプローチしているが担当部署がないので縦割りの対応しかないが市議会議員を通じアプローチしている	現在実施	まったく解決されていない	o

表 5-3 から、「FB 活動の認知度が低い」の対策を二つに分類した。課題がかなり解決されたと評価された対策として、「地域包括支援センターや各種相談センター等に FB 事業の周知を行い、FB が必要な対象者がいた場合、情報提供をしていただいている」が挙げられた。

この課題の分類として広報がほとんどを占める形となった。

### 5-5-1-(4) 「FB 活動の運営資金が少ない」の対策

「FB 活動の運営資金が少ない」の対策について表 5-4 に示す。

表 5-4 「FB 活動の運営資金が少ない」の対策 (n=10)

分類	対策	対策実施時期	対策の評価	団体名
助成金・寄付金	助成金の申請や賛助会員を募集している	現在実施	かなり解決	u
	運営資金は賛助会員・寄付・助成金等により確保しているが、長期的継続性、安定性がない。事業が忙しく、収益事業を別に開始するマンパワーはない。賛助会員を増やす努力をしている。			c
	他事業者の協力を得ると同時に寄付付き商品販売をしてもらい利益の4%を寄付してもらう予定	実施を検討		i
	当団体が属する日本FB連盟の全国会議でも一番の問題になったのは資金の問題	現在実施	少し解決	o
	企業へのFB紹介があまり進んでいないが口コミで聞いて下さる人が寄付してくれる			Z
	助成金の申請			h
	広報チラシ・ポスター・HPを通じて、寄付金を募っている。その他、様々な助成金情報を収集し当団体の活動にマッチしたものに申請している			0o
食品提供企業者へは機会があるごとの先方を訪ね、FB活動に理解を求め食品の提供をお願いしている。資金については一般の寄付をお願いしているほか、公的または企業の助成金制度を活用している	A			
広報	Facebook・ブログ・メディアへの情報提供・講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載	現在実施	少し解決	Z
	Facebook・ウェブ・講演会の積極的参加による広報			Uu
	活動のPRにより協力を募る		まったく解決されていない	z
支援事業	FB事業を中心とする就労移行支援事業を進めている	現在実施	かなり解決	G

表 5-4 から、「FB 活動の運営資金が少ない」の対策を三つに分類した。課題がかなり解決されたと評価された対策として、「助成金の申請や賛助会員を募集している」、「FB 事業を中心とする就労移行支援事業を進めている」が挙げられた。

#### 5-5-1-(5) 「FB 活動における人員が少ない」の対策

「FB 活動における人員が少ない」の対策について表 5-5 に示す。



表 5-5 「FB 活動における人員が少ない」の対策 (n=10)

分類	対策	対策実施時期	対策の評価	団体名
広報	地域包括支援センターや各種相談センター等にFB事業の周知を行い、FBが必要な対象者がいた場合、情報提供をさせていただいている。	現在実施	かなり解決	v
	HPを開設しボランティアを募っている			0
	HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布		u	
	Facebook・ブログ・メディアへの情報提供・講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載		Z	
	広報活動		h	
	HPに当団体のHPをリンクして頂いたり、社会福祉協議会県ボランティアセンターの広報誌や、市役所社会福祉課の窓口にボランティア募集のチラシを設置。		0o	
	テレビ・新聞等での記事の広報。軽トラ市も開催し、生産農家様の協力も得ている。	まったく解決されていない	Ii	
支援事業	FB事業を中心とする就労移行支援事業を進めています	現在実施	かなり解決	G
他	行政には色々アプローチしているが担当部署がないので縦割りの対応しかないが市議会議員を通じアプローチしている	現在実施	まったく解決されていない	o

表 5-5 から、「FB 活動における人員が少ない」の対策を三つに分類した。課題がかなり解決したと評価された対策として、「地域包括支援センターや各種相談センター等に FB 事業の周知を行い、FB が必要な対象者がいた場合、情報提供をさせていただいている」、「FB 事業を中心とする就労移行支援事業を進めている」が挙げられた。これら二つの対策は他の課題の対策としてもかなり解決したと評価された対策となっている。

#### 5-5-1-(6) 「食品をいただける食品提供先が少ない」の対策

「食品をいただける食品提供先が少ない」の対策について表 5-6 に示す。

表 5-6 「食品をいただける食品提供先が少ない」の対策 (n=12)

分類	対策	対策実施時期	対策の評価	団体名
広報	HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知，チラシを設置や配布	現在実施	かなり解決	u
	FBの周知，理解を促すための企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす		少し解決	AAA
	市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行って情報を提供する機会を設けている			y
	広報活動			h
	Facebook・ウェブ・講演会の積極的参加による広報			i
	テレビ，新聞等での記事の広報，軽トラ市も開催し，生産農家様の協力も得ている。		まったく解決されていない	Ii
協力・連携	協定を締結している食品提供企業だけでなく，FB事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付	現在実施	かなり解決	v
	県内で活動する生協や労組と協議会設立		少し解決	0
	近隣のFB団体との連携			
助成金・寄付金	企業へのFB紹介があまり進んでいないが口コミで聞いて下さる人が寄付してくれる	現在実施	少し解決	Z
	食品提供企業者へは機会があるごとの先方を訪ね，FB活動に理解を求め食品の提供をお願いしている。資金については一般の寄付をお願いしているほか，公的または企業の助成金制度を活用している			A
他	人とのつながりを大切に，直売所に通って毎回撤収作業を手伝うなどで活動を知ってもらう	現在実施	少し解決	C
	フードドライブの実施			0
	入手したい食品を製造・流通で扱っている企業への働きかけを積極的に行い，信頼を得て提供へ繋がる努力			c

表 5-6 から、「食品をいただける食品提供先が少ない」の対策として四つに分類した。課題がかなり解決したと評価された対策として、「HP・Facebook で広報，新聞でのイベント告知，チラシを設置や配布」，「協定を締結している食品提供企業だけでなく，FB 事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」が挙げられた。

#### 5-5-1-(7) 「日本の他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」の対策

「日本の他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」の対策について表 5-7 に示す。

表 5-7 「日本の他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」の対策 (n=3)

分類	対策	対策実施時期	対策の評価	団体名
協力・連携	FB団体間の連携	現在実施	かなり解決	0
	FB全国推進会に加入し，FB同士でのネットワークで情報共有			Z
	他のFB活動団体と情報の共有を図る	実施を検討	少し解決	A

表 5-7 から、「日本の他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」の対策として分類した。課題がかなり解決したと評価された対策として、「FB 全国推進会に加入し、FB 同士でのネットワークで情報の共有を図る」が挙げられた。

#### 5-5-1-(8) 「FB 活動の運営能力が乏しい」の対策

「FB 活動の運営能力が乏しい」の対策について表 5-8 に示す。

表 5-8 「FB 活動の運営能力が乏しい」の対策 (n=2)

分類	対策	対策実施時期	対策の評価	団体名
助成金・寄付金	助成金の申請や賛助会員を募集している	現在実施	少し解決	u
協力・連携	FB 団体間の連携	現在実施	かなり解決	0

表 5-8 から、「FB 活動の運営能力が乏しい」の対策として二つに分類した。課題がかなり解決したと評価された対策として、「FB 団体間の連携」が挙げられた。

#### 5-5-1-(9) 「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図れていない」の対策

「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図れていない」の対策について表 5-9 に示す。

表 5-9 「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図れていない」の対策 (n=2)

分類	対策	対策実施時期	対策の評価	団体名
意識	FB の食品は、注文も予約もできない不安定な食材である事を知ってもらうため、「ときどき来るサンタさんと思ってください」と最初に配るフライヤーに記入	現在実施	かなり解決	C
他	自立支援相談窓口や FB 相談受け取り時に対象者の生活状況や抱える問題を聞き取りした上で必要なものを必要な量を提供	現在実施	かなり解決	Jj

表 5-9 から、「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図れていない」の対策として二つに分類した。課題がかなり解決したと評価された対策として、「FB の食品は注文も予約もできない不安定な食材である事を知ってもらうため、ときどき来るサンタさんと思ってください」と最初に配るフライヤーに記入、「自立支援相談窓口や FB 相談受け取り時に対象者の生活状況や抱える問題を聞き取りした上で必要な量を提供」が挙げられた。

5-5-2 食品提供企業における FB 活動団体との連携の内容について

5-5-2 は、食品提供企業への本アンケート調査結果に基づく。

5-5-2-(1) FB 活動を認知した方法

FB 活動を認知した方法について表 5-10 に示す。

表 5-10 FB 活動を認知した方法 (n=5)

選択肢	企業名	D	E	F	G	H	合計
ラジオ							
書籍・雑誌							
新聞		○			○		2
テレビ				○			1
インターネット・SNS		○				○	2
講演会		○					1
実際活動している団体を拝見して			○			○	1
その他 (生協フェスティバル)			○				

表 5-10 から、食品提供企業が FB 活動を認知した方法としては、「新聞」、「インターネット・SNS」、「実際活動している団体を拝見して」等が挙げられた。

5-5-2-(2) 現在、連携している FB 活動団体を認知した方法

現在、連携している FB 活動団体を認知した方法について表 5-11 に示す。

表 5-11 現在、連携している FB 活動団体を認知した方法 (n=5)

選択肢	企業名	D	E	F	G	H	合計
ラジオ							
書籍・雑誌							
新聞					○		1
テレビ							
インターネット・SNS				○		○	2
講演会		○					1
実際活動している団体を拝見して			○				1
その他 (業界団体の会合)		○					1

表 5-11 から、食品提供企業が現在、連携している FB 活動団体を認知した方法として、

「インターネット・SNS」等が挙げられた。

FB活動を認知した方法は表 5-10 から様々な回答となったが、実際に連携を結ぶためのFB活動団体を認知する方法としては「インターネット・SNS」が多いことがわかる。

#### 5-5-2-(3) 現在のFB活動団体と連携に至った経緯における働きかけ

現在のFB活動団体と連携に至った経緯における働きかけについて表 5-12 に示す。

表 5-12 現在のFB活動団体と連携に至った経緯における働きかけ (n=5)

選択肢	企業名	D	E	F	G	H	合計
貴社からFB活動団体への働きかけ				○			1
FB活動団体から貴社への働きかけ		○	○		○	○	4

表 5-12 から、食品提供企業が現在のFB活動団体と連携に至った経緯における働きかけとして、「貴社からFB活動団体への働きかけ」は1社、「FB活動団体から貴社への働きかけ」は4社という回答となった。ほとんどが「FB活動団体から貴社への働きかけ」であることが分かる。

#### 5-5-2-(4) 食品提供企業からFB活動団体への働きかけの方法と働きかけの理由

食品提供企業からFB活動団体への働きかけの方法と働きかけの理由について表 5-13 に示す。

表 5-13 食品提供企業からFB活動団体への働きかけの方法と働きかけの理由 (n=1)

分類	方法	理由	企業名
電話	電話での問い合わせ	流通の3分の1ルールから外れてしまい、廃棄しなければならない商品があり、もったいないと感じたため	F

表 5-13 から、食品提供企業からFB活動団体への働きかけの方法と働きかけの理由として、方法については、「電話での問い合わせ」であり、理由としては、「流通の3分の1ルールから外れてしまい、廃棄しなければならない商品があり、もったいないと感じたため」とされている。

#### 5-5-2-(5) FB活動団体から食品提供企業への働きかけの方法と働きかけの内容

FB活動団体から食品提供企業への働きかけの方法と働きかけの内容について表 5-14 に示す。

表 5-14 FB 活動団体から食品提供企業への働きかけの方法と働きかけの内容 (n=4)

分類	方法	内容	企業名
書類等	チラシ・パンフレット等を使用して説明	賞味期限内で廃棄せざるをえない商品を社会福祉施設へ寄贈することにより、社会貢献となる	D
	生協フェスティバルにてFBより説明と名刺交換	生活困窮者へのまだ食べられる商品の提供活動内容	E
	直接FB活動団体から書類で説明	賞味期限の迫った商品でいただけるものはないか	H
他	理事就任を依頼されました	FB活動団体から理事就任を依頼され、受けました	G

表 5-14 から、FB 活動団体から食品提供企業への働きかけの方法と働きかけの内容として、方法については、三つに分類した。最も多い回答としては、書類等を利用し、直接 FB 活動団体からの説明が挙げられた。働きかけの内容として、「まだ食べることができる商品の提供活動内容」、「賞味期限内で廃棄せざるをえない商品を社会福祉施設等へ寄贈することにより社会貢献となる」等の内容とされている。

#### 5-5-2-(6) FB 活動団体と連携を図る決め手

FB 活動団体と連携を図る決め手について表 5-15 に示す。

表 5-15 FB 活動団体と連携を図る決め手 (n=5)

分類	決め手	企業名
社会貢献	世界には食べたくても食べる事が出来ない人がいる中で食料自給率が低い日本が食品廃棄物年間 1900 万トン、食品ロスが 500～900 万トン絶対におかしいと思い微力でも必要とされている人に届けたい	E
経費削減	廃棄する食品の処分コストがかからないため	F
CSR	会社のCSRにもなるから	H
他	寄贈した商品が横流しされないシステムとトレーサビリティが確実なこと	D
	地元の毎日新聞にFBの記事が掲載され、弊社も食品企業であることから、協力すべきと考えました	G

表 5-15 から、食品提供企業が FB 活動団体と連携を図る決め手として、四つに分類した。分類としては、「社会貢献」、「経費削減」、「CSR」となり、FB 活動団体と連携を図る決め手となっている。

#### 5-5-2-(7) FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素の有無

FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素の有無について表 5-16 に示す。

表 5-16 FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素の有無 (n=5)

選択肢 \ 企業名	D	E	F	G	H	合計
不安な要素はあった	○	○	○			3
不安な要素はなかった				○	○	2

表 5-16 から、食品提供企業が FB 活動団体と連携を図る不安な要素の有無として、「不安な要素があった」が 3 社、「不安な要素はなかった」が 2 社という回答となった。過半数が「不安な要素があった」ということが分かる。

#### 5-5-2-(8) FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素

FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素について表 5-17 に示す（記述式回答を堀が分類）。

表 5-17 FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素 (n=3)

分類	不安な要素	企業名
転売	寄贈した商品が、絶対に横流しされないか不安であった	D
	食品の運搬方法や供給先について	G
	事故等の不安もあったが転売等も発生しないか不安	H

表 5-17 から、食品提供企業が FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素として、分類した。3 社全てが FB 活動における「転売」への不安が挙げられた。転売に関する不安を取り除くことが企業が FB 活動への参加を進める要素であることが分かる。

#### 5-5-2-(9) FB 活動団体との連携で不安な要素がありながらも連携を図った理由

FB 活動団体との連携で不安な要素がありながらも連携を図った理由について表 5-18 に示す（記述式回答を堀が分類）。

表 5-18 FB 活動団体との連携で不安な要素がありながらも連携を図った理由 (n=3)

分類	理由	企業名
現場での確認	寄贈活動を開始する前に、横流しがされないことを現地確認したから	D
	FBの担当者様から直接お話を聞いて、供給先などでの不正利用防止についてしっかりとした回答を得られたため	G
	FB活動団体が真剣に活動されていたので	H

表 5-18 から、食品提供企業が FB 活動団体と連携で不安な要素がありながらも連携を図った理由として、「直接 FB 活動団体が不安な要素について回答を得られたため」等が挙げられた。

#### 5-5-2-(10) FB 活動団体との連携の内容

FB 活動団体との連携の内容について表 5-19 に示す。

表 5-19 FB 活動団体との連携の内容 (n=5)

選択肢	企業名	D	E	F	G	H	合計
食品の寄付		○	○	○	○	○	5
食品以外の寄付							
寄付金							
FB活動の人員としてボランティア							
その他 (法人賛助会員・FBHPバナー広告掲載)			○				1
その他 (理事就任)					○		1

表 5-19 から、食品提供企業が FB 活動団体との連携の内容として、5 社全てが「食品の寄付」であった。また、その他として、「法人賛助会員」、「FB HP バナー広告掲載」、「理事就任」が挙げられた。

#### 5-5-2-(11) FB 活動団体への寄付食品の中でより多くの寄付を行った食品

FB 活動団体への寄付食品の中でより多くの寄付を行った食品について表 5-20 に示す。



表 5-20 FB 活動団体への寄付食品の中でより多くの寄付を行った食品 (n=5)

選択肢	寄付数1位	寄付数2位	寄付数3位	合計
	(回答数*3)	(回答数*2)	(回答数*1)	
麺・パン類	2票*3点			6
粉類		2票*2点		4
果実加工品	1票*3点			3
加工海藻類	1票*3点			3
その他 (ビタミンE含有植物油加工食品)	1票*3点			3
その他 (ふりかけ)		1票*2点		2
麦類				
野菜加工品				
茶・コーヒー・ココア				
香辛料				
菓子類				
豆類の調整品				
砂糖類				
加工食肉製品				
酪農製品				
加工卵製品				
加工魚介類				
調味料				
食用油脂				
冷凍食品・チルド食品等				
飲料等				

表 5-20 から、寄付数 1 位であれば回答数×3、寄付数 2 位であれば回答数×2、寄付数 3 位であれば回答数×1 で行った合計より、食品提供企業が FB 活動団体への寄付食品の中でより多くの寄付を行った食品として、「麺・パン類」がより多くの寄付を行ったとされた。しかし、上位 3 種を選択していただく回答だが、どの企業も一つまたは、二つしか選択していただいている。これらから、一つの食品提供企業からの寄付食品としては、多くの種類は望むことができないと考える。

#### 5-5-2-(12) 農林水産省に FB 活動における手引きが記載されていることの認知度

農林水産省に FB 活動における手引きが記載されていることの認知度について表 5-21 に示す。

表 5-21 農林水産省に FB 活動における手引きが記載されていることの認知度 (n=5)

選択肢	企業名	D	E	F	G	H	合計
はい		○			○		2
いいえ			○	○		○	3

表 5-21 から、農林水産省に FB 活動における手引きが記載されていることの認知度については、「はい」が 2 社、「いいえ」が 3 社となった。過半数が手引きに関して認知を行っていないことが分かる。また、認知されていないことから形として手引きを公開しているだけとなり、有効性は低いのではないかと考える。

5-5-2-(13) 農林水産省に記載されている FB 活動における手引きの項目について実際の現場での実現可能性

農林水産省に記載されている FB 活動における手引きの項目について実際の現場での実現可能性について表 5-22 に示す。

表 5-22 農林水産省に記載されている FB 活動における手引きの項目について実際の現場での実現可能性 (n=5)

手引きの項目	選択肢	回答企業数	実施することは難しい(回答数*1)	実施することはやや難しい(回答数*2)	どちらともいえない(回答数*3)	準備すれば実施することができる(回答数*4)	すぐに実施可能(回答数*5)	実施済(回答数*6)	わからない	選択肢 1~6の合計	選択肢 1~6の平均点
消費期限または賞味期限を過ぎた場合や、汚損・破損等により食品衛生上の問題が生じた食品は受取先に譲渡しない。		5						5票*6点		30	6
最終的に食品を受取る団体及び個人の要望を踏まえて、食品の提供または譲渡を行う。		5	1票*1点					4票*6点		25	5
提供後に食品の安全性に疑義が生じた場合、速やかにその旨をFB活動団体へ連絡をする。		5					4票*5点	1票*6点		26	4.33
食品の提供または譲渡に係る食品の取り扱いについて、契約書または合意書を作成し、保有する。		5						4票*6点	1票	24	4
食品の提供を行う際、「保存の方法」・「賞味期限や消費期限」・「アレルギー」・「食品の品質や安全性に悪影響を及ぼす包装の破損等が無いことを事前に確認」を行う。		5						4票*6点	1票	24	4
「名称」・「数量」・「保存方法」・「消費期限または賞味期限」・「アレルギー」・「食品を安全に摂取するための事項」・「出荷年月日」・「FB活動団体の名称」・「配送場所」に関する記録を作成し、保存する。		5					1票*5点	3票*6点	1票	23	3.83
提供食品の出荷時には、送り状または納品書などにより提供食品の情報を当該FB活動団体へ適切に伝達する。		5					1票*5点	3票*6点	1票	23	3.83

表 5-22 から、実施することは難しいであれば回答数×1、実施することはやや難しいであれば回答数×2、どちらともいえないであれば回答数×3、準備すれば実施することができるであれば回答数×4、すぐに実施可能であれば回答数×5、実施済であれば回答数×6で行っ

た、農林水産省に記載されている FB 活動における手引きの項目について実際の現場での実現可能性の評価を行う。結果としては、『「名称」・「数量」・「保存方法」・「消費期限または賞味期限」・「アレルギー」・「食品を安全に摂取するための事項」・「出荷年月日」・「FB 活動団体の名称」・「配送場所」に関する記録を作成し、保存する。』と「提供食品の出荷時には、送り状または納品書などにより提供食品の情報を当該 FB 活動団体へ適切に伝達する。」の評価の合計の平均点が 3.83 と準備すれば実施することができるの評価点 4 を満たしていないため他の項目に比べ実施可能性については低いことが分かる。

### 5-5-3 社会福祉施設等における FB 活動団体との連携の内容について

5-5-3 は、社会福祉施設等への本アンケート調査結果に基づく。

#### 5-5-3-(1) FB 活動を認知した方法

FB 活動を認知した方法について表 5-23 に示す。

表 5-23 FB 活動を認知した方法 (n=17)

選択肢	施設名	D	E	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	合計
ラジオ																			
書籍・雑誌																			
新聞									○				○						2
テレビ			○				○		○				○	○					5
インターネット・SNS			○								○	○		○				○	6
講演会																			
実際活動している団体を拝見して			○		○		○					○			○				5
その他 (FB活動団体からの案内)		○				○		○										○	4
その他 (福祉関係者からの紹介)										○								○	2

表 5-23 から、社会福祉施設等が FB 活動を認知した方法として、最も多い回答は、「インターネット・SNS」が挙げられた。次に「テレビ」、「実際活動している団体を拝見して」も多く挙げられた。また、その他として多く挙げたのが、「FB 活動団体からの案内」であり、食品提供企業先だけでなく受益者となる社会福祉施設等へのアプローチも FB 活動団体が行っていることが分かる。

#### 5-5-3-(2) 現在、連携している FB 活動団体を認知した方法

現在、連携している FB 活動団体を認知した方法について表 5-24 に示す。

表 5-24 現在、連携している FB 活動団体を認知した方法 (n=17)

選択肢	施設名	D	E	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	合計
ラジオ																			
書籍・雑誌																			
新聞								○					○						2
テレビ																			
インターネット・SNS			○							○	○			○			○	○	6
講演会																			
実際活動している団体を拝見して		○		○										○					3
その他 (FB活動団体からの案内)	○				○	○	○										○		5
その他 (福祉関係者からの紹介)									○						○				2

表 5-24 から、社会福祉施設等が現在、連携している FB 活動団体を認知した方法として、最も多い回答は、「インターネット・SNS」が挙げられた。次に多いものとして、その他の「FB 活動団体からの案内」という結果であった。表 5-24 と同様に FB 活動団体からのアプローチによって認知されていることが分かる。

#### 5-5-3-(3) 現在の FB 活動団体と連携に至った経緯における働きかけ

現在の FB 活動団体と連携に至った経緯における働きかけについて表 5-25 に示す。

表 5-25 現在の FB 活動団体と連携に至った経緯における働きかけ (n=17)

選択肢	施設名	D	E	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	合計
貴施設・貴団体からFB活動団体への働きかけ			○	○	○				○	○			○		○	○			8
FB活動団体から貴施設・貴団体への働きかけ	○					○	○	○			○	○		○				○	9

表 5-25 から、社会福祉施設等が現在の FB 活動団体と連携に至った経緯における働きかけとして、「貴施設・貴団体から FB 活動団体への働きかけ」が 7 施設、「FB 活動団体から貴施設・貴団体への働きかけ」が 10 施設となった。過半数が、「FB 活動団体から貴施設・貴団体への働きかけ」であることが分かる。

#### 5-5-3-(4) 社会福祉施設等から FB 活動団体への働きかけの方法

社会福祉施設等から FB 活動団体への働きかけの方法と働きかけの理由について表 5-26 に示す。

表 5-26 社会福祉施設等から FB 活動団体への働きかけの方法と働きかけの理由 (n=8)

分類	方法	理由	施設名
メール	メールでの問い合わせ	当施設の利用者は依存症から回復する為に入所します。その為、依存対象物から遠く為に皆、よく食べます。施設の財源には限りがある為、御団体へ問い合わせさせて頂きました。	E
	メール	記入なし	K
	メールで	前々からテレビ等で知り、もったいない運動に興味があり、食材の始末を、将来のために、全国的に考える時期にきていたと思っていました。	P
	メールでの問い合わせ	フードバンクへの興味があった。また、当施設が自前の食事提供を行い、食材はその都度購入しているため、条件が合えば、社会活動にも貢献できれば一石二鳥との思いから。	Q
訪問	代表の方と直接お会いして	困窮者支援を展開するにあたり、FBのニーズが多くあったため	L
電話	電話連絡	食品廃棄を減らし環境を守る為。当苑の活動で有効に使用できる	T
他	イベント等で寄付を募る	施設を利用する機会に持参すれば受け取ってもらえるという、気楽さが浸透したようです。利用者が随時変化しますので、安定した寄付はありません。	V
	県社協と一緒に働きかけた	FB活動を紹介されたのが県社協からだったので	W

表 5-26 から、社会福祉施設等から FB 活動団体への働きかけの方法として、四つに分類した。働きかけの方法として最も多い回答は「メール」となった。その他にも、「電話」や「訪問」といった方法も働きかけとして挙げられている。

#### 5-5-3-(5) FB 活動団体から社会福祉施設等への働きかけの方法

FB 活動団体から社会福祉施設等への働きかけの方法について表 5-27 に示す。

表 5-27 FB 活動団体から社会福祉施設等への働きかけの方法と働きかけの内容 (n=9)

分類	方法	内容	施設名
メール	FB活動団体からメールで働きかけ	食品の名所、数、食品の内容についての情報がメールで送られてくる。(送料をこちらが負担することで食品を無料で寄付するとの内容)	D
	FB活動団体からメールで働きかけ	希望者は登録をしてください	N
	PCメール	日本の食品廃棄量に関する情報及び改善方法などを知らせるメールが届いた	R
	Eメール	FBへの参加依頼	S
	メール	廃棄食材の利用先を募る内容	U
	FB活動団体からメールで呼びかけ	食品ロスの有効活用活動に参加呼びかけの内容。	X
訪問	取引金融機関からの連絡	上記の取継ぎで団体が説明に来てくれた	M
	FB活動団体から直接話があった	食品メーカー等が賞味期限が近い商品を廃棄している。ゴミを減らすためにも福祉施設の利用者に役立ててもらいたい。	O
	FB活動団体代表者の訪問による活動参加の依頼	廃棄される食品の減量と食品資源の有効活用の推進	Y

表 5-27 から、FB 活動団体から社会福祉施設等への働きかけの方法として、二つに分類した。働きかけの方法として、最も多い回答は「メール」となった。もう一つの「訪問」につ

いても「メール」と同じように働きかけの内容は「FB 活動に関する説明」、「食品ロスに関する説明」が挙げられている。

#### 5-5-3-(6) FB 活動団体と連携を図る決め手

FB 活動団体と連携を図る決め手について表 5-28 に示す。

表 5-28 FB 活動団体と連携を図る決め手 (n=17)

分類	決め手	施設名
経費削減	送料はこちらが負担だが食品を無料で寄付していただけるので食品によっては経済的に助かるため。	D
	経済的に助かる	E
	無料で寄付していただけることで経済的に助かるため	K
	活動趣旨への賛同と無料での寄付であることから参加を決めた	N
	食材の確保の一手段として、丁度検討していたところであった。	Q
	食材の寄付を望んでいた廃棄される食材については以前より気になっていた	S
	無料で寄付をしていただけるので経済的に助かるため。	X
	施設利用者に一番必要な食料品を提供して頂ける事。	Y
環境意識	食べられる物を捨ててしまうよりは使ったほうが良い	M
	ゴミの削減に真摯に取り組んでいる団体に協力したいという思い。	O
	常に食品廃棄については、もったいないという気持ちがあったので、是非に参加してみようと思ったから	R
	環境保護を推進出来る為	T
社会貢献	国単位で、このような団体をもっと早く立ち上げるべきであると考えていた時期だったので、気持ちがマツ	P
	ニュース等でのこのような団体の存在は知っていたため、法人として役に立てるのであればと思い連絡し	U
	社会福祉法の改正により社会福祉法人の地域貢献事業の必要性があったため、法人としても取り組みやす	W
他	信頼関係が築けることと連携のしやすさ	L
	記入なし	V

表 5-28 から、社会福祉施設等が FB 活動団体と連携を図る決め手として、四つに分類した。最も多い回答として、「経費削減」が挙げられた。これは、社会福祉施設等の財源が少なく、FB 活動によって普段購入できないものや、必要となるものを無償でいただくため食費の経費削減となっているためと考える。その他には、「環境意識」や「社会貢献」が挙げられた。

#### 5-5-3-(7) FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素の有無

FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素の有無について表 5-29 に示す。

表 5-29 FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素の有無 (n=17)

選択肢 \ 施設名	D	E	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	合計
不安な要素はあった	○	○		○		○			○	○			○					7
不安な要素はなかった			○		○		○	○			○	○		○	○	○	○	10

表 5-29 から、社会福祉施設等が FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素として、「不安な要素はあった」が 7 施設、「不安な要素はなかった」が 10 施設となった。過半数以上が「不安な要素はなかった」ということが分かる。

#### 5-5-3-(8) FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素

FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素について表 5-30 に示す。

表 5-30 FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素 (n=7)

分類	不安な要素	施設名
食の安全性	傷がついていないか、賞味期限が短くないか、味はどうか	D
	食の安全性について	E
	食品の安全性や消費期限等の管理	L
	保育施設で給食に提供するため、安全性が心配であった	U
	食品の安全性についての不安があった	Y
他	利用したことがなかったので、全般的に不安があった	Q
	突然送られたメールだけで、ほかの施設からの情報は何もない状態だったので、信頼していいのかどうか迷った	R

表 5-30 から、社会福祉施設等が FB 活動団体と連携を図る当初の不安な要素として、二つに分類した。最も多い回答として、「食の安全性」が挙げられた。その他としては、「全般的に不安」や「他の施設での事例を知らないので信頼していいのか迷った」が挙げられた。これらに関しては、FB 活動に関する実態がまだ浸透しておらず起因した不安な要素であると考えられる。

#### 5-5-3-(9) FB 活動団体との連携で不安な要素がありながらも連携を図った理由

FB 活動団体と連携で不安な要素がありながらも連携を図った理由について表 5-31 に示す（記述式回答を掘が分類）。

表 5-31 FB 活動団体との連携で不安な要素がありながらも連携を図った理由 (n=7)

分類	理由	施設名
食の安全性への理解	冷凍食品と乾物・缶詰類であれば可能なことから、そういう食品の受け入れをさせてもらっている	B
	実際に寄付していただける食品を拝見させていただいて問題ないと感じたため	D
	実際に食品を見て安心した	E
情報や責任の明確化	しっかりと契約書を交わし、責任の所在を明確化することができたため	L
	事前に寄付物品についての情報提供があることと趣旨への賛同から参加を決めた	Y
他	送料がかかっても、寄付というところで費用的な負担はまかなえるのではないかと思ったから	Q
	現状を知ったからには、廃棄される食品をムザムザ捨てるにはもったいない気がしたのと、給食の材料として使えることに利点があったから	R

表 5-31 から、社会福祉施設等が FB 活動団体との連携で不安な要素がありながらも連携を図った理由として、三つに分類した。最も多い回答として、「食の安全性への理解」が挙げられた。そのとして、「情報や責任の明確化」が挙げられた。

#### 5-5-3-(10) 2016 年度、FB 活動団体からの食品の寄付の頻度

2016 年度、Fb 活動団体からの食品の寄付の頻度について表 5-32 に示す。

表 5-32 2016 年度、FB 活動団体からの食品の寄付の頻度 (n=17)

提供回数 (回)	施設名	提供回数 (回)	施設名	提供回数 (回)	施設名
8	D	6	O	5	U
12	E	5	P	1	V
5	K	6	Q	12	W
40	L	3	R	0	X
5	M	0	S	1	Y
2	N	2	T		

表 5-32 から、社会福祉施設等が 2016 年度、FB 活動団体から食品の寄付の頻度として、最も頻度の多い施設等では 40 回、少ない団体では 0 回や 1 回といった施設等など様々であった。

#### 5-5-3-(11) 2016 年度の FB 活動団体からの食品の寄付の頻度における満足度

2016 年度の FB 活動団体からの食品の寄付の頻度における満足度について表 5-33 に示す。



表 5-33 2016 年度の FB 活動団体からの食品の寄付の頻度における満足度 (n=17)

選択肢	施設名	D	E	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	合計
適切な頻度である		○	○	○	○			○			○			○			○	○	9
もっと頻度を増やしてほしい						○			○	○			○			○			5
頻度を減らしてもよい																			
その他 (回数だけで判断は難しい)							○						○		○				3

表 5-33 から、社会福祉施設等が 2016 年度の FB 活動団体からの食品の寄付の頻度における満足度として、「適切な頻度」が 9 施設、「もっと頻度を増やしてほしい」が 5 施設、「その他」が 3 施設となった。過半数が「適切な頻度である」ことが分かる。

5-5-3-(12) 社会福祉施設等が希望する食品の寄付の適切な頻度

社会福祉施設等が希望する食品の寄付の適切な頻度について表 5-34 に示す。

表 5-34 社会福祉施設等が希望する食品の寄付の適切な頻度 (n=5)

適切な提供回数 (回)	施設名	適切な提供回数 (回)	施設名
10	M	12	T
24	P	24	W
12	Q		

表 5-34 から、社会福祉施設等が希望する食品の寄付の適切な頻度として、現状の 2 倍の頻度であり、月に 1 回または 2 回の頻度を希望していることが分かる。

5-5-3-(13) 寄付品の中で、より多くの寄付がある寄付品

寄付品の中で、より多くの寄付がある寄付品について表 5-35 に示す。

表 5-35 寄付品の中で、より多くの寄付をしていただいている寄付品 (n=17)

選択肢	寄付数1位	寄付数2位	寄付数3位	合計
	(回答数*3)	(回答数*2)	(回答数*1)	
冷凍食品・チルド食品等	6票*3点	2票*2点	1票*1点	23
加工魚介類	4票*3点	1票*2点	1票*1点	15
麺・パン類		3票*2点	2票*1点	9
加工食肉製品	1票*3点	2票*2点		7
野菜加工品	1票*3点	1票*2点	3票*1点	6
豆類の調整品	1票*3点	1票*2点		5
麦類	1票*3点		1票*1点	4
果実加工品	1票*3点		1票*1点	4
調味料		2票*2点		4
その他 (缶詰)	1票*3点		1票*1点	4
食用油脂		1票*2点	1票*1点	3
粉類		1票*2点		2
菓子類		1票*2点		2
飲料等		1票*2点		2
その他 (補助食品)			1票*1点	1
茶・コーヒー・ココア				
香辛料				
砂糖類				
酪農製品				
加工卵製品				
加工海藻類				
ペーパータオル・ティッシュ等				
洗濯用品				
キッチン用品				
住居用品				
トイレ用品				
浴室用品				
清掃関連品				
消臭剤・芳香剤				
防災備蓄品				

表 5-35 から、寄付数 1 位であれば回答数×3、寄付数 2 位であれば回答数×2、寄付数 3 位であれば回答数×1で行った合計より、社会福祉施設等が寄付品の中で、より多くの寄付がある寄付品としては、「冷凍食品・チルド食品等」が挙げられた。その次としては、「加工魚介類」が多く、その他は大差なく挙げられた。保存や管理の難しい「酪農製品」や「加工卵製品」は寄付品としては挙げられなかった。

5-5-3-(14) 社会福祉施設等が希望する寄付品と FB 活動団体からの寄付品のマッチング

社会福祉施設等が希望する寄付品と FB 活動団体からの寄付品のマッチングについて表 5-36 に示す。

表 5-36 社会福祉施設等が希望する寄付品と FB 活動団体からの寄付品のマッチング  
(n=17)

選択肢	施設名	D	E	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	合計
マッチングしている		○		○	○	○	○	○		○	○	○		○				○	11
マッチングしていない													○				○		2
その他 (毎回の寄付によって違う)			○						○						○	○			4

表 5-36 から、社会福祉施設等が希望する寄付品と FB 活動団体からの寄付品のマッチングとして、「マッチングしている」が 11 施設、「マッチングしていない」が 2 施設、「その他」が 4 施設となった。ほとんどの社会福祉施設等が「マッチングしている」と回答したことが分かる。

5-5-3-(15) 社会福祉施設等が実際、希望している寄付品

社会福祉施設等が実際、希望している寄付品について表 5-37 に示す。

表 5-37 社会福祉施設等が実際、希望している寄付品 (n=2)

選択肢	寄付希望1位	寄付希望2位	寄付希望3位	合計
	(回答数*3)	(回答数*2)	(回答数*1)	
野菜加工品	1票*3点		1票*1点	4
調味料	1票*3点			3
粉類		1票*2点		2
冷凍食品・チルド食品等		1票*2点		2
麺・パン類			1票*1点	1

表 5-37 から、寄付希望 1 位であれば回答数×3、希望寄付 2 位であれば回答数×2、希望寄付 3 位であれば回答数×1 で行った合計より、社会福祉施設等が希望する寄付品として、「野菜加工品」が挙げられた。FB 活動において生鮮食品の扱いは管理が難しいため野菜加工品の需要があると考え。野菜という点においては、企業との連携と他に JA 等との連携も実施することができれば、社会福祉施設等の需要に応えることができるのではないかと考える。

5-5-3-(16) 社会福祉施設等が FB 活動において、食品提供企業や FB 活動団体と関わりを強化するための工夫点

社会福祉施設等が FB 活動において、食品提供企業や FB 活動団体と関わりを強化するための工夫点について表 5-38 に示す。

表 5-38 社会福祉施設等が FB 活動において、食品提供企業や FB 活動団体と関わりを強化するための工夫点 (n=15)

分類	工夫点	施設名
広報活動	施設にきてくれる食品メーカーの営業さんとFBの活動について情報交換を行い、その活動を知っている人を増やす	D
	FB活動は期限切れ商品と誤解している人もいるので正確な宣伝が必要	E
	企業と施設・団体とつながりをつくる為に積極的に職員ひとりひとりが広告塔となり、どんどん発信しています	K
	地域で起きている生活困窮の実際を広く地域・企業にも知っていただくような広報活動等。	L
	寄贈していただいた企業への感謝状の贈呈や施設の情報提供等により繋がりをつくる	N
	当法人の広報誌等を使って、FB活動を紹介していく	O
	大事に利用させて頂く事と、いい品は宣伝する。会社名や、品物の名前、よかった点などを、たくさんの家族様に知らせて、宣伝する	P
本当に必要としている人への繋がり企業では見つけにくいと思っています。個人単位からの周知で広がるものではないでしょうか	V	
連携	施設で受け入れ、子供食堂など、NPO、または個人で行っている場所に分ける。また、貧困家庭と言われている家庭に分け与えるなど	R
	各地にあるFBの連携（ある意味組織化）が重要だと感じます。お互いの情報（人、物、金、場所、設備等の状況も含め）を共有することで、企業、FB、活動団体の5W2Hが少しでも解決すると思います	S
	行政・労働組合・JA等を通じて企業に働きかけることをしています。また、直接首長に理解を求める機会を作っています	W
他	必要な食材等を常にネットなどを利用し、施設側から欲しい食材リストが常にあげられるシステムがあれば、互いに効果が出るのではないかと思います	Q
	あくまでも施設側に問題ですが、配送にかかる費用がわかりづらく、希望したものに対していくらかかるかが明確だともう少し頼みやすくなると思います	U
	特になし	M
	特になし	T
	特になし	X
	特になし	Y

表 5-38 から、社会福祉施設等が FB 活動において、食品提供企業や FB 活動団体と関わりを強化するための工夫点として、三つに分類した。最も多い回答として、広報活動が挙げられた。広報活動により FB 活動との連携における事例の情報提供を行うことや、FB 活動における賞味期限切れではない食品を扱っている等という正確な情報提供が挙げられた。広報活動に次いで、連携が挙げられた。連携といっても行政や企業だけでなく、社会福祉施設等同士の横の繋がりという点での連携も挙げられた。

## 5-6 まとめ

### 5-6-1 FB 活動団体への本アンケート調査結果

FB 活動団体への本アンケート調査の結果について考察を行う。まず、FB 活動における課題として、「FB 活動の運営資金が少ない」、「食品をいただける食品提供先が少ない」、「FB 活動の認知度が低い」が深刻度の高い上位三つとして挙げられた。廣田の先行研究では、FB 活動の課題として、「認知度の低さ」、「法的措置の欠如」が挙げられている<sup>9)</sup>。「認知度の低さ」については、先行研究においても課題として挙げられたことがわかる。

各課題に対する対策は、「協力・連携」、「広報」、「意識」、「助成金・寄付金」、「支援事業」、「その他」の六つにすべての対策を分類した。しかし、課題の対策の評価の点で表 5-2 の「提供される食品の質と量の両面での確保が困難である」の協力・連携の分類を例に挙げるとすると、同様の対策が FB 活動団体 O では対策の評価としてかなり解決されたと評価されたが、FB 活動団体 W では対策の評価は少し解決したとされているように、団体によつての課題の対策の評価としては偏りがある。そのため、本調査で挙げられた各 FB 活動団体の課題の対策において、他の FB 活動団体での課題の解決可能性と対策の実現可能性を把握し、その評価をもとに、FB 活動を進める立場から促進策の提案を行うために追加アンケート調査を行う。

### 5-6-2 食品提供企業への本アンケート調査結果

食品提供企業への本アンケート調査の結果について考察を行う。まず、食品提供企業が FB 活動を認知する方法としては、インターネット・SNS が多く挙げられた。しかし、その一方で FB 活動への不安な要素の有無に関する問において不安な要素があったと回答した企業が 5 社中 3 社であった。インターネット・SNS で情報を容易に入手することはできるが、その情報に関する信憑性が低いことが不安な要素があった要因となるのではないかと考える。また、FB 活動に認知度が低いことから実施事例の把握ができないことも不安な要素の要因になっていると考える。次に寄付食品の種類については、各企業において寄付可能な食品が決まっているため偏りがあるが、寄付数上位 3 種を選択していただく問において分かるように一つの企業で寄付可能な食品の種類が少ない。この結果から、FB 活動において社会福祉施設等の寄付食品の受益者側のニーズに応えるためには、寄付食品の量も加えて、様々な食品製造業との繋がりが重要となってくる。最後に、農林水産省に記載されている FB 活動における手引きについて、把握していると回答があった企業は 5 社中 2 社であり、過半数が把握していないという結果であった。FB 活動の手引きの項目における実際の現場での実現可能性については、「消費期限または賞味期限を過ぎた場合や、汚損・破損等により食品衛生上の問題が生じた食品は受取先に譲渡しない」という項目については 5 社すべての企業がすでに実施済と回答があったが、それ以外の項目については、実施可能や実施は難しい、わからないといった回答が見受けられた。また、手引きの項目の中で、「名称」・「数量」・「保存方法」・「消費期限または賞味期限」・「アレルギー」・「食品を安全に摂取

するための事項」・「出荷年月日」・「FB 活動団体の名称」・「配送場所」に関する記録を作成し、保存する」と「提供食品の出荷時には、送り状または納品書などにより提供食品の情報を当該 FB 活動団体へ適切に伝達する」については実現可能性の評価において、準備すれば実施することができるの 4 点を下回っており、実現可能性が低いという結果であった。このことから、農林水産省に記載されている FB 活動の手引きは、形式として公開されているだけで、効力の持たないものと位置づけられているのではないかと考える。

### 5-6-3 社会福祉施設等への本アンケート調査結果

社会福祉施設等への本アンケート調査の結果について考察を行う。まず、FB 活動の認知の方法として、実際に FB 活動団体を拝見することや FB 活動団体からの案内等が多く、直接会ってアプローチを図っていることが食品提供企業と比較して多いことが分かる。次に FB 活動における不安な要素の有無について、過半数以上の 17 施設中 10 施設が不安な要素はなかったと回答があり、食品提供企業と比べ不安な要素は少ないことが分かる。しかし、不安な要素が有ると回答をいただいた社会福祉施設等においては、寄付食品の受益者として食の安全性が不安要素として最も多く挙げられていた。そのような中で、直接寄付していただく食品を拝見することや情報や責任の明確化を図ることにより、不安要素を取り除いており、FB 活動において信頼の構築が重要であると考え。最後に、寄付品とその寄付品のマッチングについて、寄付品として最も多く挙げられていたのは、冷凍食品・チルド食品である。生鮮食品のように消費期限が短くなく保存も容易であるため、寄付品として多い傾向であると考え。寄付品のマッチングについては、17 施設中 11 施設がマッチングしていると回答をいただいた。一方で、マッチングしていないと回答をいただいた 2 施設の希望する寄付品として多く挙げたのは野菜加工品であり、受益者側として栄養の偏りを防ぐためにも FB 活動において野菜の必要性が求められていると考え。

#### <参考文献>

- 1) 廣田怜:フードバンクによる人道支援を兼ねた食品廃棄量抑制の可能性についての研究, 滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 2011 年度卒業論文 (2011)

## 第六章 FB 活動の解決可能性・実施可能性に基づく促進策の提案

### 6-1 はじめに

本章では、FB 活動団体への追加アンケート調査の結果より考察を行う。

### 6-2 本章の目的

FB 活動を進める立場から、FB 活動の促進策を提案すること（目的3）を目的とする。

### 6-3 調査方法

3-8（FB 活動団体への追加アンケート調査）で述べたとおりである。

### 6-4 調査対象

3-8（FB 活動団体への追加アンケート調査）で述べたとおりである。

### 6-5 調査結果

#### 6-5-1 FB 活動における促進策の解決可能性・実施可能性

6-5-1 は、FB 活動団体への追加アンケート調査結果に基づく。

FB 活動団体への追加アンケート調査では、FB 活動における課題の促進策において、「促進策を行うことで課題が解決可能か」、「促進策が実施可能か」について調査を行う。また、「解決可能性」の選択肢は、「はい」、「いいえ」、「当該課題がない」の三つであり、「実施可能性」の選択肢は、「実施することは難しい」、「実施することはやや難しい」、「どちらともいえない」、「準備すれば実施することができる」、「すぐに実施可能」、「実施済」、「わからない」の七つである。

次に、「解決可能性」と「実現可能性」の定義を以下の通りとする。

「解決可能性」は最大値が 100%、「実施可能性」は最大値が 6 点とし、

「解決可能性」=（「はいの回答数」÷「全体回答数」）×100%

「実施可能性」=「選択肢 1～6 の合計」÷「全体回答数」とする。なお、「選択肢 1～6 の合計」は、「実施することは難しい」であれば回答数×1、「実施することはやや難しい」であれば回答数×2、「どちらともいえない」であれば回答数×3、「準備すれば実施することができる」であれば回答数×4、「すぐに実施可能」であれば回答数×5、「実施済」であれば回答数×6 で行った評価計算の合計を示す。

また、算出した「解決可能性」と「実施可能性」の評価の定義として、

「解決可能性が高い」=「解決可能との回答数が複数」かつ「解決可能性の割合が 90%以上」

「実施可能性が高い」=「実施可能との回答数が複数」かつ「実施可能性の点数が 5 点以上」

「解決可能性がやや高い」=「解決可能との回答数が複数」かつ「解決可能性の割合が 80%以上」

「実現可能性がやや高い」＝「実施可能との回答数が複数」かつ「実施可能性の点数が4点以上」と定義した。

以下、各課題に対し、「解決可能性」または「実施可能性」が高い促進策は**橙色**、「解決可能性」または「実施可能性」がやや高い促進策は**黄色**で示す。

6-5-1-(1) 「提供される食品の質と量の両面での確保が困難」の解決可能性・実施可能性  
「提供される食品の質と量の両面での確保が困難」に対する解決可能性について表 6-1 に示す。

表 6-1 「提供される食品の質と量の両面での確保が困難」の解決可能性 (n=7)

項目 (FB活動促進策案)	回答FB活動団体数	課題解決の有無			解決可能性 (%)
		はい	いいえ	該当課題がない	
Facebook・ブログ・メディアへの情報提供・講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載	7	7			100.0
SNS・新聞・ラジオ・講演会・様々なイベントへ参加	7	7			100.0
フードドライブの実施	7	7			100.0
協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付	7	6	1		85.7
近隣のFB団体との連携	7	6	1		85.7
県内で活動する生協や労組と協議会設立	7	5	2		71.4
入手したい食品を製造・流通で扱っている企業への働きかけを積極的に実施	7	5	2		71.4
食品の提供先と受取先のニーズを繋ぐマッチングシステムの構築	7	5	2		71.4
FBの食品は、注文も予約もできない不安定な食材である事を知ってもらうため、「ときどき来るサントさんと思ってください」と最初に配るフライヤーに記入	7	4	3		57.1

表 6-1 から、解決可能性が高いのは、「Facebook・ブログ・メディアへの情報提供・講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」、「SNS・新聞・ラジオ・講演会・様々なイベントへ参加」、「フードドライブの実施」が挙げられた。また、解決可能性がやや高いのは、「協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」、「近隣のFB団体との連携」が挙げられた。

次に、「提供される食品の質と量の両面での確保が困難」に対する促進策の実施可能性について表 6-2 に示す。



表 6-2 「提供される食品の質と量の両面での確保が困難」に対する促進策の実施可能性  
(n=10)

項目 (FB活動促進策案)	回答FB活動団体数	1	2	3	4	5	6	7	選択肢1~6の合計	選択肢1~6の平均点
		実施することは難しい (回答数#1)	実施することはやや難しい (回答数#2)	どちらともいえない (回答数#3)	準備すれば実施することができる (回答数#4)	すぐに実施可能 (回答数#5)	実施済み (回答数#6)	わからない		
近隣のFB団体との連携	10			1#3		2#5	7#6		55	5.5
フードドライブの実施	10			2#3	1#4		7#6		52	5.2
協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付	10	2#1				2#5	6#6		48	4.8
Facebook・ブログ・メディアへの情報提供・講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載	10	1#1		1#3	2#4	2#5	4#6		46	4.6
SNS・新聞・ラジオ・講演会・様々なイベントへ参加	10	1#1	1#2	1#3	1#4		6#6		46	4.6
入手したい食品を製造・流通で扱っている企業への働きかけを積極的に実施	10	1#1		1#3	1#4	1#5	4#6	2	37	3.7
県内で活動する生協や労組と協議会設	10	1#1		1#3	2#4	2#5	2#6	2	34	3.4
食品の提供先と受取先のニーズを繋ぐマッチングシステムの構築	10	1#1	1#2	1#3	1#4	1#5	2#6	3	27	2.7
FBの食品は、注文も予約もできない不安定な食材である事を知ってもらうため、「とどき来るサンタさんと思ってください」と最初に配るフライヤーに記入	10			1#3	1#4	1#5	2#6	5	24	2.4

表 6-2 から、実施可能性が高いのは、「近隣の FB 団体との連携」、「フードドライブの実施」が挙げられた。また、実施可能性がやや高いのは、「協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB 事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」、「Facebook・ブログ・メディアへの情報提供・講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」、「SNS・新聞・ラジオ・講演会・様々なイベントへ参加」が挙げられた。

#### 6-5-1-(2) 「FB 活動の認知度が低い」の解決可能性・実施可能性

「FB 活動の認知度が低い」に対する解決可能性について表 6-3 に示す。

表 6-3 「FB 活動の認知度が低い」の解決可能性 (n=7)

項目 (FB活動促進策案)	回答FB活動団体数	課題解決の有無			解決可能性 (%)
		はい	いいえ	該当課題がない	
企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす	7	7			100.0
市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行行情報を提供する機会を設ける	7	7			100.0
HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布	7	7			100.0
講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載	7	7			100.0
地域包括支援センターや各種相談センター等にFB事業の周知を行い、FBが必要な対象者がいた場合、情報提供をしていただく	7	6	1		85.7

表 6-3 から、解決可能性が高いのは、「企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす」、「市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行行情報を提供する機会を設ける」、「HP・Facebook で広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配

布」,「講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」が挙げられた。また, 解決可能性がやや高いのは,「地域包括支援センターや各種相談センター等にFB事業の周知を行い,FBが必要な対象者がいた場合, 情報提供をしていただく」が挙げられた。

次に,「FB活動の認知度が低い」に対する促進策の実施可能性について表6-4に示す。

表6-4 「FB活動の認知度が低い」に対する促進策の実施可能性 (n=10)

項目 (FB活動促進策案)	回答FB活動団体数	1	2	3	4	5	6	7	選択肢1~6の合計	選択肢1~6の平均点
		実施することは難しい(回答数#1)	実施することはやや難しい(回答数#2)	どちらともいえない(回答数#3)	準備すれば実施することができる(回答数#4)	すぐに実施可能(回答数#5)	実施済み(回答数#6)	わからない		
市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行い情報を提供する機会を設ける	10				2#4	1#5	7#6		55	5.5
HP・Facebookで広報や,新聞でのイベント告知,チラシを設置や配布	10	1#1			1#4		8#6		53	5.3
地域包括支援センターや各種相談センター等にFB事業の周知を行い,FBが必要な対象者がいた場合, 情報提供をしていただく	10					2#5	7#6	1	52	5.2
企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす	10	1#1			3#4	2#5	4#6		47	4.7
講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載	10	1#1		2#3	2#4		5#6		45	4.5

表6-4から,実施可能性が高いのは,「地域包括支援センターや各種相談センター等にFB事業の周知を行い,FBが必要な対象者がいた場合, 情報提供をしていただく」,「市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行い情報を提供する機会を設ける」,「HP・Facebookで広報や,新聞でのイベント告知,チラシを設置や配布」が挙げられた。また, 実施可能性がやや高いのは,「企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす」,「講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」が挙げられた。

6-5-1-(3) 「FB活動の運営資金が少ない」の解決可能性・実現可能性

「FB活動の運営資金が少ない」の解決可能性について表6-5に示す。

表6-5 「FB活動の運営資金が少ない」の解決可能性 (n=7)

項目 (FB活動促進策案)	回答FB活動団体数	課題解決の有無			解決可能性 (%)
		はい	いいえ	該当課題がない	
助成金の申請や賛助会員を募集している	7	6		1	85.7
一般の寄付をお願いしているほか, 公的または企業の助成金制度を活用	7	6		1	85.7
講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載	7	6		1	85.7
広報チラシ・ポスター・HPを通じて, 寄付金を募る	7	5	1	1	71.4
他事業者の協力を得ると同時に寄付付き商品販売をしてもらい利益の4%を寄付してもらおう	7	3	3	1	42.9
FB事業を中心とする就労移行支援事業を進める	7	1	5	1	14.3

表 6-5 から、解決可能性が高いと評価された FB 活動促進策は挙げられなかった。しかし、解決可能性がやや高いと評価された FB 活動促進策として、「助成金の申請や賛助会員を募集している」、「一般の寄付をお願いしているほか、公的または企業の助成金制度を活用」、「講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」が挙げられた。

次に、「FB 活動の運営資金が少ない」に対する促進策の実施可能性について表 6-6 に示す。

表 6-6 「FB 活動の運営資金が少ない」に対する促進策の実施可能性 (n=9)

項目 (FB活動促進策案)	回答FB活動団体数	1	2	3	4	5	6	7	選択肢1~6の合計	選択肢1~6の平均点
		実施することは難しい(回答数#1)	実施することはやや難しい(回答数#2)	どちらともいえぬ(回答数#3)	準備すれば実施することができる(回答数#4)	すぐに実施可能(回答数#5)	実施済(回答数#6)	わからない		
助成金の申請や賛助会員を募集している	9	1#1	1#2	1#3			6#6		42	4.7
一般の寄付をお願いしているほか、公的または企業の助成金制度を活用	9	1#1	1#2			1#5	5#6	1	38	4.2
講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載	9	1#1	1#2	2#3		1#5	4#6		38	4.2
広報チラシ・ポスター・HPを通じて、寄付金を募る	9	1#1	1#2	1#3	1#4		4#6	1	34	3.8
FB事業を中心とする就労移行支援事業を進める	9	3#1	1#2	1#3		1#5	1#6	2	19	2.1
他事業者の協力を得ると同時に寄付付き商品販売をしてもらい利益の4%を寄付してもらう	9	5#1	1#2				2#6	1	19	2.1

表 6-6 から、実施可能性が高いと評価された FB 活動促進策は挙げられなかった。しかし、実施可能性がやや高いと評価された FB 活動促進策として、「助成金の申請や賛助会員を募集している」、「一般の寄付をお願いしているほか、公的または企業の助成金制度を活用」、「講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」が挙げられた。

#### 6-5-1-(4) 「FB 活動における人員が少ない」の解決可能性・実施可能性

「FB 活動における人員が少ない」の解決可能性について表 6-7 に示す。

表 6-7 「FB 活動における人員が少ない」の解決可能性 (n=7)

項目 (FB活動促進策案)	回答FB活動団体数	課題解決の有無			解決可能性 (%)
		はい	いいえ	該当課題がない	
HPを開設しボランティアを募る	7	6		1	85.7
HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布	7	6		1	85.7
地域包括支援センターや各種相談センター等にFB事業の周知を行い、FBが必要な対象者がいた場合、情報提供をしていただく	7	5	1	1	71.4
講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載	7	5	1	1	71.4
FB事業を中心とする就労移行支援事業を進める	7	2	4	1	28.6

表 6-7 から、解決可能性が高いと評価された FB 活動促進策は挙げられなかった。しかし、解決可能性がやや高いと評価された FB 活動促進策として、「HP を開設しボランティアを募る」、「HP・Facebook で広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」が挙げられた。

次に、「FB 活動における人員が少ない」に対する促進策の実施可能性について表 6-8 に示す。

表 6-8 「FB 活動における人員が少ない」に対する促進策の実施可能性 (n=9)

項目 (FB活動促進策案)	回答FB活動団体数	1	2	3	4	5	6	7	選択肢1~6の合計	選択肢1~6の平均点
		実施することは難しい(回答数#1)	実施することはやや難しい(回答数#2)	どちらともいえない(回答数#3)	準備すれば実施することができる(回答数#4)	すぐに実施可能(回答数#5)	実施済(回答数#6)	わからない		
HPを開設しボランティアを募る	9		1#2	2#3			6#6		44	4.9
地域包括支援センターや各種相談センター等にFB事業の周知を行い、FBが必要な対象者がいた場合、情報提供をしていただく	9	1#1	1#2			2#5	5#6		43	4.8
HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布	9	1#1		3#3		1#5	4#6		39	4.3
講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載	9	2#1		2#3	1#4		4#6		36	4.0
FB事業を中心とする就労移行支援事業を進める	9	3#1	1#2	2#3			1#6	2	17	1.9

表 6-8 から、実施可能性が高いと評価された FB 活動促進策は挙げられなかった。しかし、実施可能性がやや高いと評価された FB 活動促進策として、「地域包括支援センターや各種相談センター等に FB 事業の周知を行い、FB が必要な対象者がいた場合、情報提供をしていただく」、「HP を開設しボランティアを募る」、「HP・Facebook で広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」、「講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」が挙げられた。

#### 6-5-1-(5) 「食品をいただける食品提供先が少ない」の解決可能性・実施可能性

「食品をいただける食品提供先が少ない」の解決可能性について表 6-9 に示す。

表 6-9 「食品をいただける食品提供先が少ない」の解決可能性 (n=7)

項目 (FB活動促進策案)	回答FB活動団体数	課題解決の有無			解決可能性 (%)
		はい	いいえ	該当課題がない	
企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす	7	7			100.0
フードドライブの実施	7	7			100.0
HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布	7	6	1		85.7
協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付	7	6	1		85.7
近隣のFB団体との連携	7	6	1		85.7
市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行い情報を提供する機会を設ける	7	5	2		71.4
県内で活動する生協や労組と協議会設立	7	5	2		71.4
入手したい食品を製造・流通で扱っている企業への働きかけを積極的に実施	7	4	3		57.1
直売所などを通して毎回撤収作業を手伝うなどで活動を知ってもらう	7	3	4		42.9

表 6-9 から、解決可能性が高いのは、「企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす」、「フードドライブの実施」が挙げられた。また、解決可能性がやや高いのは、「HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」、「協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」、「近隣のFB団体との連携」が挙げられた。

次に、「食品をいただける食品提供先が少ない」に対する促進策の実施可能性について表 6-10 に示す。

表 6-10 「食品をいただける食品提供先が少ない」に対する促進策の実施可能性 (n=10)

項目 (FB活動促進策案)	回答FB活動団体数	1	2	3	4	5	6	7	選択肢1～6の合計	選択肢1～6の平均点
		実施することは難しい (回答数#1)	実施することはやや難しい (回答数#2)	どちらともいえない (回答数#3)	準備すれば実施することができる (回答数#4)	すぐに実施可能 (回答数#5)	実施済み (回答数#6)	わからない		
フードドライブの実施	10			1#3	1#4	1#5	7#6		54	5.4
近隣のFB団体との連携	10	1#1					8#6	1	49	4.9
企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす	10		1#2	1#3	2#4	1#5	5#6		48	4.8
HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布	10	1#1			1#4	1#5	6#6	1	46	4.6
協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付	10	2#1			2#4	2#5	4#6		44	4.4
市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行い情報を提供する機会を設ける	10			1#3	2#4	1#5	4#6	2	40	4.0
県内で活動する生協や労組と協議会設立	10	3#1		1#3	2#4	2#5	2#6		36	3.6
入手したい食品を製造・流通で扱っている企業への働きかけを積極的に実施	10	1#1		2#3		2#5	3#6	2	35	3.5
直売所などを通して毎回撤収作業を手伝うなどで活動を知ってもらう	10	4#1	2#2		1#4	1#5		2	17	1.7

表 6-10 から、実施可能性が高いのは、「フードドライブの実施」が挙げられた。また、実施可能性がやや高いのは、「HP・Facebook で広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」、「企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす」、「市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行い情報を提供する機会を設ける」、「協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB 事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」、「近隣の FB 団体との連携」が挙げられた。

6-5-1-(6) 「他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」の解決可能性・実施可能性  
「他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」の解決可能性について表 6-11 に示す。

表 6-11 「他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」の解決可能性 (n=7)

項目 (FB活動促進策案)	回答FB活動団体数	課題解決の有無			解決可能性 (%)
		はい	いいえ	該当課題がない	
FB全国推進会に加入し、FB同士でのネットワークで情報共有	7	5		2	71.4

表 6-11 から、解決可能性が高い、解決可能性がやや高いともに評価された FB 活動促進策は挙げられなかった。

次に、「他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」に対する促進策の実施可能性について表 6-12 に示す。

表 6-12 「他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」に対する促進策の実施可能性 (n=8)

項目 (FB活動促進策案)	回答FB活動団体数	1	2	3	4	5	6	7	選択肢1~6の合計	選択肢1~6の平均点
		実施することは難しい (回答数*1)	実施することはやや難しい (回答数*2)	どちらともいえない (回答数*3)	準備すれば実施することができる (回答数*4)	すぐに実施可能 (回答数*5)	実施済 (回答数*6)	わからない		
FB全国推進会に加入し、FB同士でのネットワークで情報共有	8	1*1	1*2	1*3	1*4	1*5	1*6	2	21	2.6

表 6-12 から、実施可能性が高い、実施可能性がやや高いともに評価された FB 活動促進策は挙げられなかった。

6-5-1-(7) 「FB 活動の運営能力が乏しい」の解決可能性・実施可能性  
「FB 活動の運営能力が乏しい」の解決可能性について表 6-13 に示す。

表 6-13 「FB 活動の運営能力が乏しい」の解決可能性 (n=7)

項目 (FB活動促進策案)	回答FB 活動団 体数	課題解決の有無			解決可 能性 (%)
		はい	いいえ	該当課題 がない	
FB団体間の情報を共有し、連携の強化	7	6	1		85.7
助成金の申請や賛助会員を募集	7	5	1	1	71.4

表 6-13 から、解決可能性が高いと評価された FB 活動促進策は挙げられなかった。しかし、解決可能性がやや高いと評価された FB 活動促進策として、「FB 団体間の情報を共有し、連携の強化」が挙げられた。

次に、「FB 活動の運営能力が乏しい」に対する促進策の実施可能性について表 6-14 に示す。

表 6-14 「FB 活動の運営能力が乏しい」に対する促進策の実施可能性 (n=9)

項目 (FB活動促進策案)	回答FB 活動団 体数	1	2	3	4	5	6	7	選択肢 1~6の 合計	選択肢1 ~6の平 均点
		実施する ことは難 しい(回 答数*1)	実施する ことはや や難しい (回答数 *2)	どちらと もいえな い(回答 数*3)	準備すれ ば実施す ることが できる (回答数 *4)	すぐに実 施可能 (回答数 *5)	実施済 (回答数 *6)	わから ない		
FB団体間の情報を共有し、連携の強化	9			1*3		4*5	4*6		47	5.2
助成金の申請や賛助会員を募集	9					2*5	5*6	2	40	4.4

表 6-14 から、実施可能性が高いのは、「FB 団体間の情報を共有し連携の強化」が挙げられた。また、実施可能性がやや高いのは、「助成金の申請や賛助会員を募集」が挙げられた。

#### 6-5-1-(8) 「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図られていない」の解決可能性・実施可能性

「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図られていない」の解決可能性について表 6-15 に示す。

表 6-15 「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図られていない」の解決可能性 (n=7)

項目 (FB活動促進策案)	回答FB活動団体数	課題解決の有無			解決可能性 (%)
		はい	いいえ	該当課題がない	
自立支援相談窓口やFB相談受け取り時に対象者の生活状況や抱える問題を聞き取りした上で必要なものを必要な量を提供	7	6		1	85.7
FBの食品は、注文も予約もできない不安定な食材である事を知ってもらうため、「ときどき来るサンタさんと思ってください」と最初に配るフライヤーに記入	7	3	3	1	42.9

表 6-15 から、解決可能性が高いと評価された FB 活動促進策は挙げられなかった。しかし、解決可能性がやや高いと評価された FB 活動促進策として、「自立支援相談窓口や FB 相談受け取り時に対象者の生活状況や抱える問題を聞き取りした上で必要なものを必要な量を提供」が挙げられた。

次に、「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図られていない」に対する促進策の実施可能性について表 6-16 に示す。

表 6-16 「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図られていない」に対する促進策の実施可能性 (n=9)

項目 (FB活動促進策案)	回答FB活動団体数	1	2	3	4	5	6	7	選択肢1~6の合計	選択肢1~6の平均点
		実施することは難しい (回答数#1)	実施することはやや難しい (回答数#2)	どちらともいえない (回答数#3)	準備すれば実施することができる (回答数#4)	すぐに実施可能 (回答数#5)	実施済 (回答数#6)	わからない (回答数#7)		
自立支援相談窓口やFB相談受け取り時に対象者の生活状況や抱える問題を聞き取りした上で必要なものを必要な量を提供	9						8#6	1	48	5.3
FBの食品は、注文も予約もできない不安定な食材である事を知ってもらうため、「ときどき来るサンタさんと思ってください」と最初に配るフライヤーに記入	9	2#1					3#6	4	20	2.2

表 6-16 から、実施可能性が高いのは、「自立支援相談窓口や FB 相談受け取り時に対象者の生活状況や抱える問題を聞き取りした上で必要なものを必要な量を提供」が挙げられた。また、実施可能性がやや高いと評価された FB 活動促進策は挙げられなかった。

## 6-5-2 FB 活動の促進策の解決可能性・実施可能性による有効性

6-5-2 は、FB 活動団体への追加アンケート調査結果に基づく。

「有効な促進策」と「比較的有効な促進策」の定義を以下の通りとする。

「有効な促進策」=「解決可能性が高い」かつ「実施可能性が高い」とし、「比較的有効な促進策」=「解決可能性がやや高い」かつ「実施可能性がやや高い」とする。これに加え、「解決可能性」と「実施可能性」が「やや高い」と「高い」組み合わせとなる対策も「比較的有



効な促進策」とする。

以下、「有効な促進策」は**橙色**，「比較的有効な促進策」は**黄色**で示す。

#### 6-5-2-(1) 「提供される食品の質と量の両面での確保が困難」の促進策の有効性

「提供される食品の質と量の両面での確保が困難」の促進策の有効性について表 6-17 に示す。

表 6-17 「提供される食品の質と量の両面での確保が困難」の促進策の有効性

項目 (FB活動促進策案)	解決可能性 (%)	実施可能性 (点)
フードドライブの実施	100.0	5.2
近隣のFB団体との連携	85.7	5.5
協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付	85.7	4.8
Facebook・ブログ・メディアへの情報提供・講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載	100.0	4.6
SNS・新聞・ラジオ・講演会・様々なイベントへ参加	100.0	4.6
入手したい食品を製造・流通で扱っている企業への働きかけを積極的に実施	71.4	3.7
県内で活動する生協や労組と協議会設	71.4	3.4
食品の提供先と受取先のニーズを繋ぐマッチングシステムの構築	71.4	2.7
FBの食品は、注文も予約もできない不安定な食材である事を知ってもらうため、「ときどき来るサントさんと思ってください」と最初に配るフライヤーに記入	57.1	2.4

表 6-17 から、「提供される食品の質と量の両面での確保が困難」に対する有効な促進策は、「フードドライブの実施」となった。また、比較的有効な促進策は、「協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」、「近隣のFB団体との連携」、「Facebook・ブログ・メディアへの情報提供・講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」、「SNS・新聞・ラジオ・講演会・様々なイベントへ参加」となった。

#### 6-5-2-(2) 「FB活動の認知度が低い」の促進策の有効性

「FB活動の認知度が低い」の促進策の有効性について表 6-18 に示す。

表 6-18 「FB活動の認知度が低い」の促進策の有効性

項目 (FB活動促進策案)	解決可能性 (%)	実施可能性 (点)
市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行い情報を提供する機会を設ける	100.0	5.5
HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布	100.0	5.3
地域包括支援センターや各種相談センター等にFB事業の周知を行い、FBが必要な対象者がいた場合、情報提供をしていただく	85.7	5.2
企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす	100.0	4.7
講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載	100.0	4.5

表 6-18 から、「FB 活動の認知度が低い」に対する有効な促進策は、「市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行い情報を提供する機会を設ける」、「HP・Facebook で広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」となった。また、比較的有効な促進策は、「地域包括支援センターや各種相談センター等に FB 事業の周知を行い、FB が必要な対象者がいた場合、情報提供をしていただく」、「企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす」、「講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」となった。

#### 6-5-2-(3) 「FB 活動の運営資金が少ない」の促進策の有効性

「FB 活動の運営資金が少ない」の促進策の有効性について表 6-19 に示す。

表 6-19 「FB 活動の運営資金が少ない」の促進策の有効性

項目 (FB活動促進策案)	解決可能性 (%)	実施可能性 (点)
助成金の申請や賛助会員を募集している	85.7	4.7
一般の寄付をお願いしているほか、公的または企業の助成金制度を活用	85.7	4.2
講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載	85.7	4.2
広報チラシ・ポスター・HPを通じて、寄付金を募る	71.4	3.8
FB事業を中心とする就労移行支援事業を進める	14.3	2.1
他事業者の協力を得ると同時に寄付付き商品販売をしてもらい利益の4%を寄付してもらう	42.9	2.1

表 6-19 から、「FB 活動の運営資金が少ない」に対する有効な促進策とされるものはない。しかし、比較的有効な促進策としては、「助成金の申請や賛助会員を募集している」、「一般の寄付をお願いしているほか、公的または企業の助成金制度を活用」、「講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」となった。

#### 6-5-2-(4) 「FB 活動における人員が少ない」の促進策の有効性

「FB 活動における人員が少ない」の促進策の有効性について表 6-20 に示す。

表 6-20 「FB 活動における人員が少ない」の促進策の有効性

項目 (FB活動促進策案)	解決可能性 (%)	実施可能性 (点)
HPを開設しボランティアを募る	85.7	4.9
HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布	85.7	4.3
地域包括支援センターや各種相談センター等にFB事業の周知を行い、FBが必要な対象者がいた場合、情報提供をしていただく	71.4	4.8
講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載	71.4	4.0
FB事業を中心とする就労移行支援事業を進める	28.6	1.9

表 6-20 から、「FB 活動における人員が少ない」に対する有効な促進策とされるものはない。しかし、比較的有効な促進策としては、「HP を開設しボランティアを募る」、「HP・Facebook で広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」となった。

#### 6-5-2-(5) 「食品をいただける食品提供先が少ない」の促進策の有効性

「食品をいただける食品提供先が少ない」の促進策の有効性について表 6-21 に示す。

表 6-21 「食品をいただける食品提供先が少ない」の促進策の有効性

項目 (FB活動促進策案)	解決可能性 (%)	実施可能性 (点)
フードドライブの実施	100.0	5.4
近隣のFB団体との連携	85.7	4.9
企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす	100.0	4.8
HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布	85.7	4.6
協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付	85.7	4.4
市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行い情報を提供する機会を設ける	71.4	4.0
県内で活動する生協や労組と協議会設立	71.4	3.6
入手したい食品を製造・流通で扱っている企業への働きかけを積極的に実施	57.1	3.5
直売所などを通して毎回撤収作業を手伝うなどで活動を知ってもらう	42.9	1.7

表 6-21 から、「食品をいただける食品提供先が少ない」に対する有効な促進策は、「フードドライブの実施」となった。また、比較的有効な促進策は、「HP・Facebook で広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」、「企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす」、「協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB 事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」、「近隣の FB 団体との連携」となった。

#### 6-5-2-(6) 「他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」の促進策の有効性

「他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」の促進策の有効性について表 6-22 に示す。

表 6-22 「他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」の促進策の有効性

項目 (FB活動促進策案)	解決可能性 (%)	実施可能性 (点)
FB全国推進会に加入し、FB同士でのネットワークで情報共有	71.4	2.6

表 6-22 から、「他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」に対する有効な促進策と比較的有効な促進策とされるものはない。

6-5-2-(7) 「FB 活動の運営能力が乏しい」の促進策の有効性

「FB 活動の運営能力が乏しい」の促進策の有効性について表 6-23 に示す。

表 6-23 「FB 活動の運営能力が乏しい」の促進策の有効性

項目 (FB活動促進策案)	解決可能性 (%)	実施可能性 (点)
FB団体間の情報を共有し、連携の強化	85.7	5.2
助成金の申請や賛助会員を募集	71.4	4.4

表 6-23 から、「FB 活動の運営能力が乏しい」に対する有効な促進策とされるものはない。しかし、比較的有効な促進策は、「FB 団体間の情報を共有し、連携の強化」となった。

6-5-2-(8) 「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図られていない」の促進策の有効性

「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図られていない」の促進策の有効性について表 6-24 に示す。

表 6-24 「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図られていない」の促進策の有効性

項目 (FB活動促進策案)	解決可能性 (%)	実施可能性 (点)
自立支援相談窓口やFB相談受け取り時に対象者の生活状況や抱える問題を聞き取りした上で必要なものを必要な量を提供	85.7	5.3
FBの食品は、注文も予約もできない不安定な食材である事を知ってもらうため、「ときどき来るサンタさんと思ってください」と最初に配るフレイヤーに記入	42.9	2.2

表 6-24 から、「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図られていない」に対する有効な促進策とされるものはない。しかし、比較的有効な促進策は、「自立支援相談窓口や FB 相談受け取り時に対象者の生活状況や抱える問題を聞き取りした上で必要なものを必要な量を提供」となった。

6-5-2-(9) FB 活動における有効な促進策

解決可能性と実施可能性より行った有効性において、有効な促進策についてまとめたものを表 6-25 に示す。

表 6-25 FB 活動における有効な促進策

課題	項目 (FB活動促進策案)	解決可能性 (%)	実施可能性 (点)
FB活動の認知度が低い	市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行い情報を提供する機会を設ける	100.0	5.5
	HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布	100.0	5.3
食品をいただける食品提供先が少ない	フードドライブの実施	100.0	5.4
提供される食品の質と量の両面での確保が困難	フードドライブの実施	100.0	5.2

6-5-2-(10) FB 活動における比較的有効な促進策

解決可能性と実施可能性より行った有効性において、比較的有効な促進策についてまとめたものを表 6-26 に示す。

表 6-26 FB 活動における比較的有効な促進策

課題	項目 (FB活動促進策案)	解決可能性 (%)	実施可能性 (点)
提供される食品の質と量の両面での確保が困難	近隣のFB団体との連携	85.7	5.5
	協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付	85.7	4.8
	Facebook・ブログ・メディアへの情報提供・講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載	100.0	4.6
	SNS・新聞・ラジオ・講演会・様々なイベントへ参加	100.0	4.6
FB活動の認知度が低い	地域包括支援センターや各種相談センター等にFB事業の周知を行い、FBが必要な対象者がいた場合、情報提供をしていただく	85.7	5.2
	企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす	100.0	4.7
	講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載	100.0	4.5
FB活動の運営資金が少ない	助成金の申請や賛助会員を募集している	85.7	4.7
	一般の寄付をお願いしているほか、公的または企業の助成金制度を活用	85.7	4.2
	講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載	85.7	4.2
FB活動における人員が少ない	HPを開設しボランティアを募る	85.7	4.9
	HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布	85.7	4.3
食品をいただける食品提供先が少ない	近隣のFB団体との連携	85.7	4.9
	企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす	100.0	4.8
	HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布	85.7	4.6
	協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付	85.7	4.4
食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図られていない	自立支援相談窓口やFB相談受け取り時に対象者の生活状況や抱える問題を聞き取りした上で必要なものを必要な量を提供	85.7	5.3
FB活動の運営能力が乏しい	FB団体間の情報を共有し、連携の強化	85.7	5.2

## 6-6 まとめ

### 6-6-1 課題「提供される食品の質と量の両面での確保が困難」

上記の課題において、解決可能性が高いのは、「Facebook・ブログ・メディアへの情報提供・講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」、「SNS・新聞・ラジオ・講演会・様々なイベントへ参加」、「フードドライブの実施」となった。また、解決可能性がやや高いのは、「協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」、「近隣のFB団体との連携」となった。

次に、実施可能性が高いのは、「近隣のFB団体との連携」、「フードドライブの実施」となった。また、実施可能性がやや高いのは、「協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」、「Facebook・ブログ・メディアへの情報提供・講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」、「SNS・新聞・ラジオ・講演会・様々なイベントへ参加」となった。

最後に、促進策の有効性において、有効な促進策は、「フードドライブの実施」となった。また、比較的有効な促進策は、「協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」、「近隣のFB団体との連携」、「Facebook・ブログ・メディアへの情報提供・講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」、「SNS・新聞・ラジオ・講演会・様々なイベントへ参加」となった。

### 6-6-2 課題「FB活動の認知度が低い」

上記の課題において、解決可能性が高いのは、「企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす」、「市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行い情報を提供する機会を設ける」、「HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」、「講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」となった。また、解決可能性がやや高いのは、「地域包括支援センターや各種相談センター等にFB事業の周知を行い、FBが必要な対象者がいた場合、情報提供をしていただく」となった。

次に、実施可能性が高いのは、「地域包括支援センターや各種相談センター等にFB事業の周知を行い、FBが必要な対象者がいた場合、情報提供をしていただく」、「市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行い情報を提供する機会を設ける」、「HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」となった。また、実施可能性がやや高いのは、「企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす」、「講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」となった。

最後に、促進策の有効性において、有効な促進策は、「市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行い情報を提供する機会を設ける」、「HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」となった。また、比較的有効な促進策は、「地域包括支援センターや各種相談センター等にFB事業の周知を行い、FBが必要な対象者がいた場合、情報提供をしていただく」、「企業の集まりや一般市民への説明の機会

を増やす」,「講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」となった。

#### 6-6-3 課題「FB活動の運営資金が少ない」

上記の課題において、解決可能性が高いと評価されたFB活動促進策はない。しかし、解決可能性がやや高いと評価されたFB活動促進策として、「助成金の申請や賛助会員を募集している」、「一般の寄付をお願いしているほか、公的または企業の助成金制度を活用」、「講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」となった。

次に、実施可能性が高いと評価されたFB活動促進策はない。しかし、実施可能性がやや高いと評価されたFB活動促進策としては、「助成金の申請や賛助会員を募集している」、「一般の寄付をお願いしているほか、公的または企業の助成金制度を活用」、「講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」となった。

最後に、促進策の有効性において、有効な促進策とされるものはない。しかし、比較的有効な促進策としては、「助成金の申請や賛助会員を募集している」、「一般の寄付をお願いしているほか、公的または企業の助成金制度を活用」、「講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」となった。

#### 6-6-4 課題「FB活動における人員が少ない」

上記の課題において、解決可能性が高いと評価されたFB活動促進策はない。しかし、解決可能性がやや高いと評価されたFB活動促進策として、「HPを開設しボランティアを募る」、「HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」となった。

次に、実施可能性が高いと評価されたFB活動促進策はない。しかし、実施可能性がやや高いと評価されたFB活動促進策として、「地域包括支援センターや各種相談センター等にFB事業の周知を行い、FBが必要な対象者がいた場合、情報提供をしていただく」、「HPを開設しボランティアを募る」、「HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」、「講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」となった。

最後に、促進策の有効性において、有効な促進策とされるものはない。しかし、比較的有効な促進策としては、「HPを開設しボランティアを募る」、「HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」となった。

#### 6-6-5 課題「食品をいただける食品提供先が少ない」

上記の課題において、解決可能性が高いのは、「企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす」、「フードドライブの実施」となった。また、解決可能性がやや高いのは、「HP・Facebookで広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」、「協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」、「近隣のFB団体との連携」となった。

次に、実施可能性が高いのは、「フードドライブの実施」となった。また、実施可能性が

やや高いのは、「HP・Facebook で広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」、  
「企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす」、「市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行い情報を提供する機会を設ける」、「協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB 事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」、「近隣の FB 団体との連携」となった。

最後に、促進策の有効性において、有効な促進策は、「フードドライブの実施」となった。  
また、比較的有効な促進策は、「HP・Facebook で広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」、「企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす」、「協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB 事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」、「近隣の FB 団体との連携」となった。

#### 6-6-6 課題「他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」

上記の課題において、解決可能性が高い、解決可能性がやや高い、実施可能性が高い、実施可能性がやや高い、促進策の有効性のすべてにおいて評価された FB 活動促進策はない。

#### 6-6-7 課題「FB 活動の運営能力が乏しい」

上記の課題において、解決可能性が高いと評価された FB 活動促進策はない。しかし、解決可能性がやや高いと評価された FB 活動促進策として、「FB 団体間の情報を共有し、連携の強化」となった。

次に、実施可能性が高いのは、「FB 団体間の情報を共有し、連携の強化」となった。また、実施可能性がやや高いのは、「助成金の申請や賛助会員を募集」となった。

最後に、促進策の有効性において、有効な促進策とされるものはない。しかし、比較的有効な促進策は、「FB 団体間の情報を共有し、連携の強化」となった。

#### 6-6-8 課題「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図られていない」

上記の課題において、解決可能性が高いと評価された FB 活動促進策はない。しかし、解決可能性がやや高いと評価された FB 活動促進策としては、「自立支援相談窓口や FB 相談受け取り時に対象者の生活状況や抱える問題を聞き取りした上で必要なものを必要な量を提供」となった。

次に、実施可能性が高いのは、「自立支援相談窓口や FB 相談受け取り時に対象者の生活状況や抱える問題を聞き取りした上で必要なものを必要な量を提供」となった。また、実施可能性がやや高いと評価された FB 活動促進策はない。

最後に、促進策の有効性において、有効な促進策とされるものはない。しかし、比較的有効な促進策は、「自立支援相談窓口や FB 相談受け取り時に対象者の生活状況や抱える問題を聞き取りした上で必要なものを必要な量を提供」となった。



## 第七章 結論

### 7-1 本研究の結論

本研究の目的は以下の3つである。

目的1：FB活動団体とその協力企業、社会福祉施設等の実態を食品ロスの収集、保存、配達等の面から把握すること

目的2：FB活動における課題の対策を整理し、対策の要因を把握すること

目的3：FB活動を進める立場から、FB活動の促進策を提案すること

本章では、これらの目的について結論を以下に述べる。

#### 7-1-1 目的1の結論

7-1-1は、FB活動団体、その協力企業、社会福祉施設等の各々の実態を示す。

7-1-1-(1) FB活動団体の食品の収集、保存、配達、課題点に関する実態を以下に示す。

##### (1) FB活動団体の収集方法

収集方法においては、「食品を譲り受ける企業から食品を車で送ってもらう」や「食品を譲り受ける企業まで食品を取りに行く」が多くの団体で行われている。そのような、収集方法がある中、物流企業に食品提供企業からの食品を収集とその食品を社会福祉施設等へ配達を委託するFB活動団体もある。このように物流企業へ委託することで、通常の配送網を利用し、効率良く食品の受益者へと配達を行うことが可能となるのではないかと考える。

##### (2) FB活動団体の保存方法

保存方法として、「常温保存のみを扱うため、団体の倉庫で保存」や「業務用冷蔵庫・冷凍庫で保存」が多くの団体で行われている。また、「集荷後早く出荷し、食品の保存を発生させない」という実態もあり、食品の事故を未然に防ぐための対策として行っていることと考える。

##### (3) FB活動団体の配達方法

配達方法においては、「施設・団体の車でFB活動団体に取りに来てもらう」や「施設・団体へは、FB活動団体の車両で配送」や「車を所有するFB活動団体のメンバーが自家用車で配送」が多くの団体で行われている。収集方法と同様に、物流企業へ委託することで、通常の配送網を利用し、効率良く食品の受益者へと配達を行うことが可能となるのではないかと考える。

##### (4) FB活動団体の課題点

FB活動における課題点として、「運営資金の確保」が多くの団体が抱える課題であることがわかった。FB活動は、無償で行う活動とされているため収益が見込めない。そのため、

行政からの助成金や寄付金等で賄うとされているが、そのような金銭面においてはFB活動団体の規模の大きさに関係するため、団体間での金銭面での格差が存在する。そのため、「運営資金の確保」が多くの団体が抱えている課題となっていると考える。

7-1-1-(2) 食品提供企業のFB活動における経費負担・利益や効果・課題点に関する実態を以下に示す。

(1) 食品提供企業のFB活動における経費負担

あるFB活動団体との連携での経費負担としては、配送を委託している物流企業へ配送費の負担が挙げられた。このことから、あるFB活動団体というFB活動団体が経費を負担することなく、配送が行われることが分かる。このことにより、FB活動団体の課題点として挙げられた「運営資金が少ない」という点に関して、FB活動団体が配送の経費負担をせざるうことができるため他のFB活動団体と比較すると経費の削減が可能となっている。

(2) 食品提供企業のFB活動における利益や効果

あるFB活動団体との連携での利益や効果について述べる。「食品処分コストの低減と社内での社会貢献及び環境意識の向上」が利益や効果としてある。企業側としては、食品の処分コストをかけることなく、CSRとしても効果があるため、このような点が今後、企業側に協力していただくことを推進するために必要な点と考える。

(3) 食品提供企業のFB活動における課題点

あるFB活動団体との連携での課題点について述べる。「賞味の短い商品は取り扱えない」が課題点として企業で存在するが、これについては食品事故を未然に防ぐための対策であるため、課題の解決は難しそうだが、「施設が希望する商品と提供できる商品がマッチングしない」については、食品を提供して下さる企業との連携を強化することでニーズに応えることができると考える。そのためには、まず現在連携を結んでいる企業との関係を強化し、食品提供企業間の繋がり等で連携企業を増やすことも可能となるのではと考える。

7-1-1-(3) 社会福祉施設等のFB活動における経費負担・利益や効果・課題点に関する実態を以下に示す。

(1) 社会福祉施設等のFB活動における経費負担

あるFB活動団体との連携での経費負担としては、食品を提供していただく企業への配送費の負担がある。このことから上記の食品提供企業の実態把握も踏まえて考えるとあるFB活動団体のシステムとして、食品を提供していただく企業が一旦配送料を払うが、後に施設等が配送費を企業へ支払う仕組みであり、あるFB活動団体にとっては配送に関するコストがかからないようになっていると考える。

## (2) 社会福祉施設等の FB 活動における利益や効果

ある FB 活動団体との連携での効果について述べる。「食品を購入するコストを削減することができる」が効果としてある。社会福祉施設等は配送費を払うことになっているが、一般的に食品を購入するに比べ、配送費の方が安価で食品を確保できるため、食費の経費削減に繋がっていると考ええる。

## (3) 社会福祉施設等の FB 活動における課題点

ある FB 活動団体との連携での課題点について述べる。「保存できる容量に限りがあるため、常温保存可能な食品を増やしてもらいたい」が課題として挙げられた。その一方で、「生鮮野菜等を増やしてほしい」という課題もあり、各社会福祉施設等によって食品に関するニーズは異なっている。この課題点については、多くの業種との連携を進めることや、生鮮野菜については、JA 等との連携等を進めるのも良いのではないかと考える。

### 7-1-2 目的 2 の結論

FB 活動における課題の対策を整理し、対策の要因を以下に示す。

#### (1) 課題「提供される食品の質と量の両面での確保が困難である」の対策

上記課題の対策として、「協力・連携」、「広報」、「意識」、「他」に分類した。また、対策の評価としてかなり解決と評価された対策は、「協力・連携」に分類した「協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB 事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」、「意識」に分類した「FB の食品は、注文も予約もできない不安定な食材である事を知ってもらうため、「ときどき来るサンタさんと思ってください」と最初に配るフライヤーに記入」となった。

#### (2) 課題「FB 活動の認知度が低い」の対策

上記課題の対策として、「広報」、「他」に分類した。また、対策の評価としてかなり解決と評価された対策は、「広報」に分類した「地域包括支援センターや各種相談センター等に FB 事業の周知を行い、FB が必要な対象者がいた場合、情報提供をさせていただいている」となった。

#### (3) 課題「FB 活動の運営資金が少ない」の対策

上記課題の対策として、「助成金・寄付金」、「広報」、「支援事業」に分類した。また、対策の評価としてかなり解決と評価された対策は、「助成金・寄付金」に分類した「助成金の申請や賛助会員を募集している」、「支援事業」に分類した「FB 事業を中心とする就労移行支援事業を進めている」となった。

#### (4) 課題「FB 活動における人員が少ない」の対策

上記の課題の対策として、「広報」、「支援事業」、「他」に分類した。また、対策の評価としてかなり解決と評価された対策は、「広報」に分類した「地域包括支援センターや各種相談センター等に FB 事業の周知を行い、FB が必要な対象者がいた場合、情報提供をしている」、「支援事業」に分類した「FB 事業を中心とする就労移行支援事業を進めている」となった。

#### (5) 課題「食品をいただける食品提供先が少ない」の対策

上記の課題の対策として、「広報」、「協力・連携」、「助成金・寄付金」、「他」に分類した。また、対策の評価としてかなり解決と評価された対策は、「広報」に分類した「HP・Facebook で広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」、「協力・連携」に分類した「協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB 事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」となった。

#### (6) 課題「日本の他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」の対策

上記の課題の対策として、「協力・連携」に分類した。また、対策の評価としてかなり解決と評価された対策は、「協力・連携」に分類した「FB 団体間の連携」、「FB 全国推進会に加入し、FB 同士でのネットワークで情報共有」となった。

#### (7) 課題「FB 活動の運営能力が乏しい」の対策

上記の課題の対策として、「助成金・寄付金」、「協力・連携」に分類した。また、対策の評価としてかなり解決と評価された対策は、「協力・連携」に分類した「FB 団体間の連携」となった。

#### (8) 課題「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図れていない」の対策

上記の課題の対策として、「意識」、「他」に分類した。また、対策の評価としてかなり解決と評価された対策は、「意識」に分類した「FB の食品は、注文も予約もできない不安定な食材である事を知ってもらうため、「ときどき来るサンタさんと思ってください」と最初に配るフライヤーに記入」、「他」に分類した「自立支援相談窓口や FB 相談受け取り時に対象者の生活状況や抱える問題を聞き取りした上で必要なものを必要な量を提供」となった。

### 7-1-3 目的3の結論

FB 活動を進める立場から、FB 活動の促進策を以下に示す。

#### (1) 課題「提供される食品の質と量の両面での確保が困難である」の促進策

上記の課題において、有効な促進策は、「フードドライブの実施」となった。また、比較

的有効な促進策は、「協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB 事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」、「近隣の FB 団体との連携」、「Facebook・ブログ・メディアへの情報提供・講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」、「SNS・新聞・ラジオ・講演会・様々なイベントへ参加」となった。

#### (2) 課題「FB 活動の認知度が低い」の促進策

上記の課題において、有効な促進策は、「市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行って情報を提供する機会を設ける」、「HP・Facebook で広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」となった。また、比較的有効な促進策は、「地域包括支援センターや各種相談センター等に FB 事業の周知を行い、FB が必要な対象者がいた場合、情報提供をしていただく」、「企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす」、「講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」となった。

#### (3) 課題「FB 活動の運営資金が少ない」の促進策

上記の課題において、有効な促進策とされるものはない。しかし、比較的有効な促進策としては、「助成金の申請や賛助会員を募集している」、「一般の寄付をお願いしているほか、公的または企業の助成金制度を活用」、「講演会の開催・ジモティなど地元誌への掲載」となった。

#### (4) 課題「FB 活動における人員が少ない」の促進策

上記の課題において、有効な促進策とされるものはない。しかし、比較的有効な促進策としては、「HP を開設しボランティアを募る」、「HP・Facebook で広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」となった。

#### (5) 課題「食品をいただける食品提供先が少ない」の促進策

上記の課題において、有効な促進策は、「フードドライブの実施」となった。また、比較的有効な促進策は、「HP・Facebook で広報や、新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」、「企業の集まりや一般市民への説明の機会を増やす」、「協定を締結している食品提供企業だけでなく、FB 事業の趣旨に賛同いただいた企業等からも食品の寄付」、「近隣の FB 団体との連携」となった。

#### (6) 課題「日本の他の FB 活動団体と連携が密にとられていない」の促進策

上記の課題において、対策の有効性において評価された FB 活動促進策はない。

#### (7) 課題「FB 活動の運営能力が乏しい」の促進策

上記の課題において、有効な促進策とされるものはない。しかし、比較的有効な促進策は、

「FB 団体間の情報を共有し、連携の強化」となった。

(8) 課題「食品を必要とする受益者への食品のマッチングが図れていない」の促進策

上記の課題において、有効な促進策とされるものはない。しかし、比較的有効な促進策は、「自立支援相談窓口や FB 相談受け取り時に対象者の生活状況や抱える問題を聞き取りした上で必要なものを必要な量を提供」となった。

(9) 現在、FB 活動団体と連携を図っていない食品提供企業と連携を図るための促進策

現在、連携を図っていない食品提供企業と連携を図るためには、FB 活動を知ってもらうための、FB 活動に関する情報の発信が重要であると考えられる。そのため、FB 活動団体と現在、連携を図っている食品提供企業への本アンケート調査の結果を基に行う。

連携を図っていない食品提供企業への FB 活動の周知方法として、「インターネット・SNS」が情報の発信として有効的となった。また、食品提供企業が FB 活動団体と連携を図る決め手として、「社会貢献」、「経費削減」、「CSR」といった利点が魅力的と感ずるため、FB 活動の内容だけでなく、企業側としての利点も踏まえ情報の発信を行うべきと考える。一方で、食品提供企業側が感ずる FB 活動の不安な要素として、「食品の運搬・供給先」、「食品の横流し」、「食品の転売」が挙げられたため、そのような不安要素も FB 活動を周知する際に発信すべきと考える。

(10) 現在、FB 活動団体と連携を図っていない社会福祉施設等と連携を図るための促進策

現在、連携を図っていない社会福祉施設等と連携を図るためには、FB 活動を知ってもらうための、FB 活動に関する情報の発信が重要であると考えられる。そのため、FB 活動団体と現在、連携を図っている社会福祉施設等への本アンケート調査の結果を基に行う。

連携を図っていない社会福祉施設等への FB 活動の周知方法として、「インターネット・SNS」が情報の発信として有効的となった。また、社会福祉施設等 FB 活動団体と連携を図る決め手として、「経費削減」、「環境意義」、「社会貢献」といった利点が魅力的と感ずるため、FB 活動の内容だけでなく、施設側としての利点も踏まえ情報の発信を行うべきと考える。一方で、社会福祉施設等側が感ずる FB 活動の不安な要素として、「食の安全性」が最も多く挙げられたため、そのような不安要素も FB 活動を周知する際に発信すべきと考える。

## 7-2 本研究全体を通しての考察

本研究において、FB 活動の実態把握と促進策の提案を行うため調査を行ってきた。

はじめに、本研究では、FB 活動における FB 活動団体・食品提供企業・社会福祉施設等の実態について明らかにし、FB 活動における課題点とその課題に対する対策を把握し、促進策の提案をすることを目的とした。まず、FB 活動に関する実態を明らかにし、そこから課題を見つけ、各課題に対する対策を提示した。提示した促進策の中で、4つの有効な促進

策を挙げた。「フードドライブの実施」、「市の行事や更生保護女性会・民生児童委員会などを利用した呼びかけを行い情報を提供する機会を設ける」、「HP・Facebookで広報や新聞でのイベント告知、チラシを設置や配布」である。これらが促進策としてFB活動の課題の解決可能性と促進策の実施可能性の評価が高いため、実施することでFB活動の拡大につながると考える。また、四つの有効な促進策の中から、「フードドライブの実施」に注目する。フードドライブとは、県内の社会福祉協議会、寺院、教会、ボランティアセンター等を食品の集荷場所とし、一般家庭から食品の提供を募る活動である。このフードドライブにより、市民が助け合う共助の関係を築くことに繋がると共に、寄付者自身が食品ロスの問題について考える機会になると考えられている。

次に、廣田の先行研究の際のFB活動団体の実態と比較し、活動の拡大と共にFB活動における課題も増加していることが分かった。まずFB活動の拡大について、廣田の先行研究において日本国内のFB活動団体数として20団体とされていたが、本研究では、平成28年では40団体、平成29年では75団体と団体数が増加傾向となっている。これは、現代社会においてFB活動の需要が増えているためと考える。また、FB活動団体数が増加となると共に、全国FB推進協議会が発足された。この協議会は、日本のFB活動におけるFB活動団体の組織基盤が十分でないため組織間での連携強化のため発足されたとされる。このようにFB活動の拡大が行われており、今後もFB活動の需要や役割は高まっていくと考える。また、FB活動の課題においては、本研究において課題が具体的なものになったと考える。廣田の先行研究において、課題として認知度の低さと法的措置の欠如が挙げられていた。認知度の低さについては本研究においても課題として挙げられた。一方、法的措置の欠如については、課題としてFB活動団体からの声はあったが、上記で述べた全国FB推進会が関係省庁への政策提言や、FB活動の推進のための調査研究を行っていると言われており、今後の国への政策の提言への貢献が期待される。FB活動の促進に向け今後の動向に注目したい。

### 7-3 今後の課題

本研究を取り組むにあたり、FB活動におけるFB活動団体・食品提供企業・社会福祉施設等の実態について明らかにすることができ、FB活動における課題点とその課題に対する対策を把握し、促進策における解決可能性と実施可能性を提示するまで至った。しかしながら、すべての課題に対する有効な促進策を提案すること及びFB活動の促進策までには至らなかった。また、現在FB活動団体と連携を図っている食品提供企業や社会福祉施設等へのアンケート調査を実施し、連携における実態や課題について把握したが、現在FB活動団体と連携を図っていない食品提供企業や社会福祉施設等への調査を実施することで、今後FB活動を連携する企業や施設等への具体的な方法及びFB活動の促進策になると考える。

#### <参考文献>

- 1) 石田浩基：一般家庭における食品ロス削減に寄与する食育についての一考察 (2013)

## 謝辞

本研究を進めるにあたり、ご協力いただいた方々に心より御礼申し上げます。

本研究は、アンケート調査にご協力いただきました、農林水産省 HP 記載の FB 活動団体の皆様、FB 活動団体と連携を図られている食品提供企業の皆様、並びに社会福祉施設等の皆様のおかげで完成することができました。度々、多くの項目にわたるアンケートに関わらず、貴重な情報やご意見をいただいた上に、卒業論文作成への励ましの御言葉や体調への気遣いをいただきましたことに感謝申し上げます。中でも、一般社団法人中央ライフ・サポートセンターの遠藤昌男様には、卒業論文に着手した当初から、FB 活動に関して有益な情報のご教示や予備アンケート調査から追加アンケート調査にわたる全ての調査にご協力いただき、大変お世話になりました。

指導教員である金谷先生、本当にお世話になりました。先生は、私が調査を進めるにあたる悩みを親切、丁寧に指導してくださいました。方向性が見えず暗中模索の時期もあったのですが、先生のご指導があったからこそ卒業論文を書き終えることができました。また、審査をしていただいた香川先生のおかげで、よりよい卒業論文にすることができました。

金谷研究室の同期の皆様にも、お世話になりました。毎回のゼミ報告では、皆様の進捗を知ることで自分への刺激になり、卒業論文の執筆を終えるまでにあたり、皆様の持つ和やかな雰囲気のおかげで救われたことも多々ありました。先生をはじめ、皆様と金谷研究室で書き上げられたことをよかったですと思います。

改めて、卒業論文を仕上げるにあたり、支えてくださった皆様に心から感謝申し上げます。

2018年2月19日

堀 晃樹